



## 目次

薬用植物の紹介	薬用植物園長代行	草野源次郎	1
新入生の皆さんへ	学長	矢内原千鶴子	2
事務局長就任にあたって	事務局長	肥塚敏彰	3
退任の挨拶		河野光次	3
退任の辞		碓井信二	4
碓井信二教授の最終講義によせて	学長	矢内原千鶴子	5
	助教授	濱中久美子	6
大型機器設置報告	前大型共同機器整備計画委員長	石田寿昌	7
卒業者の進路状況と卒業予定者の進路希望調査		就職部	8
第86回薬剤師国家試験の結果	前薬剤師国家試験対策委員長	中元安雄	11
特別講演会「民族と人権」を終えて	前人権委員長	稲森善彦	12
平成13年度入学試験結果と平成14年度入学試験概要		入試・広報課	13
環境整備事業について	前環境保全委員長	石田寿昌	15
公開教育講座	公開教育講座委員長	掛見正郎	16
市民講座、科学研究費補助金採択状況			17
総務課だより			18
教務課だより、前期行事予定			19
図書館だより、学生課だより			20
健康管理について			21
平成13年度学校法人予算について	事務局長	肥塚敏彰	22
法人・学内関係人事			23
各部・委員会・委員一覧			24
教員研究業績一覧（2000年）			26

## カラスビシャク *Pinellia ternata* Breitenbach

写真のカラスビシャクはサトイモ科の多年生草本で、日本、朝鮮、中国に分布する。畑地や果樹園等に生え、雑草として扱われる。草丈は15~30cmで、地下に直径1~2.5cmの球茎を有し、それぞれ1~2枚の葉を付ける。葉柄の下部または小葉基部にむかごを生じ、栄養繁殖を行う。バイオ技術が発達するはるか昔から、クローン増殖をしてきた植物である。球茎またはむかごで増殖すると共に、種子を結実させ、増殖する。その種子増殖の方法が神秘的である。

初夏に、球茎から葉柄より長い花茎を伸ばし、その頂きに緑色または暗紫色を帯びた仏炎苞に包まれた肉穂花序をつける。花序の基部には雌花がつき、仏炎苞の筒部に合生し、その上部は雄花部がつく。雄花部の先端は糸状に伸びる。昆虫は蜜を求めて、仏炎苞の上部から入り、雄花部を通して、体に花粉を着けたまま、下部の雌花部に進む。受粉させ、蜜を採取することはできるが、仏炎苞の先端から飛び出すのが難しい。下端に狭い穴があり、小さい昆虫は逃げ出せるが、大きい昆虫は出られない。多くの昆虫にとっては、命懸けの蜜の採取で、結実した時に仏炎苞の下部を開いてみると、昆虫の死体が見つかる。その死体は溶けかかっているため、この植物は昆虫を栄養として利用しているように思われる。

球茎の外皮を除き乾燥したものをハンゲ（半夏）と呼び、柴苓湯、柴胡加竜骨牡蛎湯、柴胡桂枝湯、小柴胡湯、小青竜湯、大柴胡湯、麦門冬湯、半夏厚朴湯など、有名な漢方方剤に配合される。また、鎮吐作用などを期待して、つわりの時などに使う家庭薬に配合される。ハンゲはヘソクリとも呼ばれる。球茎の中心が凹んでいるためである。また、農家の主婦が畑仕事の合間に、この球茎を集め、生薬を買い取る商人に売り、「へそくった」ためともいわれる。地下部は切れやすく、掘り起こすのに手間がかかる。最近では、ポリエチレン製の網を底に敷いて栽培して、一気に掘り起こし、水洗いして土砂を除く方法が工夫されている。

えぐ味の強い生薬であるが、生姜などと共に煎じ



ると、えぐ味が感じられなくなる。えぐ味成分は3,4-diglycosilic benzaldehyde またはシュウ酸カルシウムの針晶であり、煎液では針晶は粘液に包まれ、えぐ味が無くなる。

鎮吐作用の本体はガラクトツロン酸を多く含む多糖体である。少量ながら、(-)-ephedrine が含まれることが分かり、注目された。最近、インフルエンザウイルスワクチン接種後に、小青竜湯を投与すると、IgA 抗体価が高くなることが明らかにされた。そのアジュバント活性を増強する本体はハンゲから得られ、ピネリン酸と名付けられたトリヒドロキシ不飽和脂肪酸で、9S,12S,13S-trihydroxy-10E-octadecenoic acid であることが明らかにされた。この種の低分子化合物がアジュバント活性を示すことは重要である。最近、小青竜湯は水様汁の多いかぜに有効であると再評価されたので、この発見はその薬理効果の科学的証拠の一つになると思われ、興味を持たれる。

初夏の陽光の下、カラスビシャクの妖艶な姿を眺めながら、2000年以上も使われてきた半夏のことを思った。漢方方剤のいくつかは1000年先にも使われていると思われる。古くて新しい薬にまた一つ科学的証拠が加わりそうであることを喜んでいる。

(教授 草野源次郎)

# 新入生の皆さんへ

学長 矢内原 千鶴子

校門前の桜並木が入学生の応援花のように満開であった入学式から一月足らず、はや緑の若葉が生き生きと茂る季節になって参りました。入学式から2週間、最初の緊張の日々も過ぎ去る4月23日、盛大に開催されました「教員、新入生交流会」では、多くの皆さんが、先生方と自由闊達に話し合っておられる様子を見て嬉しく思いました。既に将来にむけて目標を定め、それに向かって様々なことを学んで行きたいと張り切っている人、まだどうしてよいか分からず迷っている人、人それぞれではありますが、始まったばかりの大学生活です。迷ってよし、目標に向かって邁進してもよし、自分自身を成長させて行く道は一つではなく、またそれができるのが大学であるといえるでしょう。助けが必要ならば先生方はいつでも喜んで手を差し伸べて下さることと、思います。大阪薬科大学はそうした大学であります。

本学では、本年度は学部入学者選抜に新しい方式を取り入れました。すなわち従来の方式の他に、AO（アドミッションオフィス）入試と編入試を実施しました。学力試験中心の選抜法だけでなく、評価の方法を多様化し、大きな可能性を秘めた様々なタイプの受験生を受け入れるよう努めました。編入試で入学された方は5名と少数ではありましたが、一人ひとりが異なった大学を卒業し、その後も異なった経歴をもちながら、全員がその経験の上に立って、薬学をあらためて学ぶことへの意欲と目標を自分の中でしっかりと把握されていることが対話の中で実感でき、何よりも嬉しく思いました。これらの方々には、自分より数年から十年歳下の人達が大半を占める2年次に編入されましたが、経験から得たより幅広いものの考え方と、新しい事へ勇気をもって挑戦する意欲を、学びの日々の中で学友に伝え、有為の社会人となるための貴重な案内役となって頂ければと思っています。AO入試では、自己アピール書、課題レポート、面接などを通して従来の入試方式では得られなかった、受験生の皆さんの人柄、考え方、意欲などを知る機会が多くありました。薬学を学ぶことへの熱意は、むしろ私自身にあらためて新鮮な力呼び起こしてくれたように思います。AO入試を経て入学された方々は、そうした初志を最後まで貫いて下さい。入学生の中では、いうまでもなく従来の入試方式で合格された方々が大半であり、今年もまた優秀な新入生を迎えることができましたことは、私ども教員の誇りでありまた励みでもあります。一方で責任の重大さを痛感するところでもあります。

社会は今、国内のみならず世界規模で目まぐるしく流動しています。変化する社会の中で、薬学出身

者の果たす役割も多様化し、責任は増大しています。薬科大学に入学した今、多くの皆さんは、各自自らの将来を薬剤師という職業と結びつけて考えておられることと思います。医療の分野で薬を専門的に取り扱う重要な機能を担うのが薬剤師としての役割の大きな部分を占めております。しかし、薬科大学出身者が担う社会での役割はそれだけではありません。卒業後には職業に対する多様な選択肢が用意されているという、経済不況下にあっても極めて恵まれた環境にある薬学生にとっては、それだけに、大学で学んでおかなければならないことも決して少なくありません。むしろ、たいへんなものであることを覚悟し、一步一步着実に進んで頂きたいと願っています。いうまでもなく、薬剤師国家試験合格は、こうしたことを確実にやり遂げた結果の証であり、また、いかなる職業につこうとも、薬学出身者である限り薬剤師免許取得は minimum requirement といえましょう。

入学式でも申しましたが、厳しい大学入試に備えて与えられた教科を効率よくこなすことが求められた高校時代の勉強から脱却し、ひとりの人間として自ら学ぶ、自ら求めて学ぶ姿勢を早く身につけて下さい。大学は、物事に対する幅広い、柔軟で独自性のある考え方ができる能力、その考えを他に十分伝え得るコミュニケーション能力、さらには問題を自ら見出し、それを解決する能力をつけるためのところであるといえましょう。また「授業を受ける」という一方的に与えられるようなものではなく、学生の皆さんが講義に実習に、自ら主体性をもって参加する修学の姿勢をもって頂きたいと、思います。そして、専門的な知識はいうまでもなく、さらに科学的思考能力と人間性を兼ね備えた品性豊かな知識人、教養人となるための基礎を身につける努力をして下さい。

いずれにいたしましても、今後の4年間が、皆さん一人ひとりの人生で最も充実したものであったと振り返ることのできる学生生活を送って下さることを切に願っております。

薬学出身者が担う社会的役割の重要性から薬学教育の6年への延長の必要性が長く論じられながら実現の目途はいまだ立っておりません。一方、実質それを先取りする形で大学院進学者数が増加しております。どのような領域で活躍することになるとしても、将来の薬学と薬学出身者をリードする人材となるべく、自信をもって学問においても、研究においても、また日常生活でも自分自身を精一杯鍛え磨いて下さい。大きな成果を期待しています。

## 事務局長就任にあたって



事務局長  
肥塚敏彰

このたび、創立以来98年目を迎える歴史と伝統のある、そして、高槻キャンパスに移転6年目の施設・設備も新しく立派な大阪薬科大学に、4月1日付けで河野前事務局長さんの後任としてまいらせていただきましたことをとても嬉しく思っています。

私は昭和39年に京都大学（工学部合成化学科）を卒業してから、5年間（株）東洋ゴム工業に勤め、その後大阪府立高等学校の教員（教科専門は化学科）になりました。途中、大阪府教育委員会の指導主事や管理主事として教育行政も経験しましたが、この3月末まで大阪府立牧野高校の校長を務めていました。

大学は高校から見ますと卒業生を送り出す出口の機関にあたり、入試広報課とは比較的良好に接触がありました。大学の教育内容や研究内容、とくに薬学部のことについては詳しく知りません。また、私立大学の経営や管理についても知りませんので、これから一生懸命学習し、研究してまいりたいと思っています。

大学は教育と研究が生命ですが、学生を直接に指導していただき、また、研究を行っておられる教員の先生方とそれを支える事務局の職員がよい連携をとってこそ、より成果があがるものと思います。その意味で事務局長としての責任の重大さをひしひしと感じています。今後どうかよろしくご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

## 退任の挨拶

河野光次

本学には平成3年から本年まで10年間の永い間大変お世話になり誠にありがとうございました。当初は3年間ぐらいと思っていたので、これほど永い間勤めさせていただくことになるとは思っていませんでした。

この10年を振り返ってみますと、思い出すことはやはり、キャンパス移転事業にかかわることで、特に印象に残っているのは阪神淡路大震災との関わりです。

本学のキャンパス移転工事は平成6年12月に起工式をとりおこない建設にむけてスタートを切ったのですが、僅かその1ヶ月後に阪神淡路大震災が発生しました。まれにみる大規模な地震でしたので、救助活動、復興活動にボランティアの人々をはじめ多くの人々が神戸に赴かれましたが、建設関係の人々も同じく神戸に大動員されることになりました。

このため着工したばかりの高槻の新キャンパス工事現場では、工事は止まり作業員の姿はまったく見られない状況となりました。

「予定した平成8年3月の新キャンパスの完成はおぼつかなくなってしまう、一年延期ということになるのではないかな。もし、一年延期になれば建設費も資金繰りも基本的なところで大きな変更を余儀なくされることになる大変な事態になってしまう」と気が気ではありませんでした。

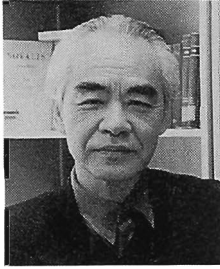
とりわけ気になったのは、松原周辺に下宿していた学生達のことです。当時、松原周辺の下宿屋さんは、後一年しかない薬大の学生には貸し渋る傾向がありましたので、一年延期してもらおうことがうまくゆくだろうか。

また一方、高槻周辺の薬大生をあてに新築を進めていた下宿屋さんは一年間入居者がなくなってしまう。心配しだすと次から次に、いろいろな問題が起こることが予想され、気の休まることのない日が続きました。

「平成6年12月の着工の時期が悪かったのだろうか。いや着工していたからよかったもので、もし着工していなかったら建設時期をめぐる議論が起こり、移転計画の白紙還元ということになったかもしれない」など自問自答を繰り返す日が続きました。震災後3ヶ月が経過し、新キャンパス工事が再開され、予定通り平成8年3月に無事完成しました。

こうした予想外の大自然が起きたにもかかわらず、新キャンパス工事が予定通り完成の運びとなったのは、目に見えない力のお陰と心から感謝しましたが、その思いは今も全く変わりません。

大阪薬科大学の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。



## 渚の今浦島

— 退任の辞に代えて —

碓井信二

「学報」(43号)に退任の辞を寄せるようにとの依頼を機に、遠い記憶を辿ってみると「学報」の創刊に参画したのは確か昭和56(1981)年の春でしたか。委員長をなさっておられた衛生化学の水谷教授の研究室で、幾度か編集会議を重ねたことを思い出しました。

それにしても人間の記憶とは、つくづく妙なものだと思えます。過去の経験の意味を変えてしまうことがあるからです。勤続30年と云っても、思い返すだけに茫々として、とても自分の所業とは信じられません。実際には講義とか会議など、そうした大学生生活の現実的関連性に支えられて勤められただけなのですが、それとても過ぎ去ってみれば一場の夢のような気がするのです。17世紀のスペインの劇作家カルデロンには『人生は夢』と題する作品がありますが、カトリックの信仰厚いこの作家には、「夢」とは虚妄な現世として否定されるべきものの代名詞でしょうから、私の見ていた夢とは異なるようです。東洋では、人の世の儚さを「槿花一朝の夢」(白居易)と形容しますが、朝の一時にしか咲かぬ槿花に会おうとは、そのこと自体全くの偶然でありながら、それでいて避けようのない不思議な因縁として、人間が常に直面している実存的な「極限状況」(ヤスパース)と言えるのでしよう。けだし、死すべき身として一度目を閉じてしまえば、億劫の闇を経てもこんな光景を再び見る事など、とてもあろうとは思えないからです。これが「盲亀の浮木に遭う」(涅槃経)と譬えられる、人生一回きりの奇跡の光明なのかも知れません。

この譬えは「海亀」のモチーフを通じて、古くか

ら日本に伝えられているある説話を思い出させます。

『日本書紀』(八世紀編纂)の雄略帝の治世(五世紀)に記録のある「浦島の子」の話です。丹後は水の江の漁夫浦島の子が、亀に乗り海境を越えて遥か常世に竜宮を訪ねた話は誰もが知っています。問題は、その帰郷譚にあります。すっかり変わり果てた故郷の村で自分が土地の祖霊として「浦島明神」に祀られているのを知り、今の境遇が夢か現か迷ってしまった挙げ句、禁じられていた玉手箱を開けてしまった浦島は、狂い死に息絶えたと『万葉』の歌人高橋虫麻呂(奈良朝初期)は歌います。「常世」(常夜の冥府)が「海境」を越えた彼方にある以上、浦島が越えたのは「生死の境」だったかも知れません。確かに生命の日常的限界を越えることは、危険な経験に違いありません。私も在勤30年間にどこかで「玉手箱」を開けてしまったらしく、気づくとすっかり白髪になっていました。しかし私は通説に反し、浦島は長生きしたかも知れぬと思うのです。

『丹後風土記逸文』には、帰郷後の彼の次のような生活の歌が残されているからです。

兒らに恋い 朝戸を開き 我が居れば  
常世の浜の浪の音 聞こゆ

彼岸と此岸の渚に杳として響き合うこのような生命の浪の音を聞きながら、人は新しい故郷に住み着くのだと思うのです。大阪薬大の一層の発展を祈念する言葉に代えて、こんな今浦島の繰り言を述べる失礼は、長年の誼みに免じてお許し下さい。

## 碓井信二教授の最終講義によせて

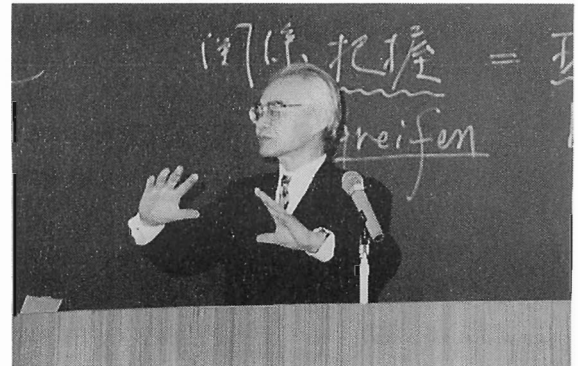
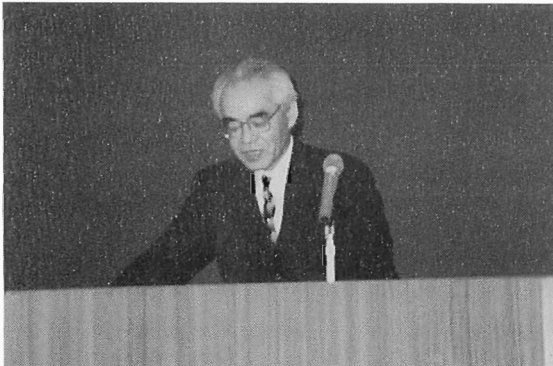
学 長 矢内原 千鶴子

平成13年3月21日、「言葉の迷い道」と題しての碓井信二教授の最終講義が行われました。残念ながら、私自身着任以来先生と落ち着いてお話させて頂く機会もないままに最終講義を拝聴いたしました。自然科学の一端で仕事に熱中してきた長い年月の間に、やゝもすれば人間としての深い思索から遠ざかり、そして欲びや悩みを、自分をとりまく現実の中でしか思考し解決してこなかった私にとっては、精神的な人間の根幹にかかわる先生のお話は潤いに充ち、多忙の中で忘れていた、私自身のあの若かった日々の豊かであった心の動きの数々を懐かしく思い出させて下さいました。先生の同世代として生きてきた私にとって、講義の中にもありましたように、幼少時からの、今から思えば今後は絶対にあり得ないような、心身ともに苛酷な体験は、一方では人間として生きる上でかけがいのないものであったようにも思われ、感慨深いものがありました。限られた

時間で残念ではありましたが、先生のご業績の一端に触れさせて頂くことができたのみならず、心豊かなひとときを持つことができましたことに厚くお礼申し上げます。

先生には、30年という長きにわたって本学の語学（ドイツ語）教育に多大なご尽力を賜り、一方、特にハンス・カロッサに関する研究で多くの業績を残されました。また、本学の教養関連の教育、研究の成果や業績をおさめた“ばいであ”の発行責任者として、Vol.2 より Vol.20 まで、実に19年という長期間にわたり、その発展に尽くされました。

最後に本学の教育、研究における先生のご業績とご貢献を称え、厚くお礼申し上げますとともに今後のご健勝を心よりお祈り申し上げます。ご退職の後も是非ご来学下さり、ご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



# 碓井信二教授の最終講義によせて

助教授 濱 中 久美子

碓井信二教授は長年にわたり、本学においてドイツ語、文学、人文科学特論2（コミュニケーション論）を講じてこられたが、本年3月末をもって、嘱託期間を満了し、ご退職になられた。それに先立ち平成13年3月21日午後1時より、講義・実習棟講義室2Aにおいて、最終講義が行われた。ご講義の題目は「言葉の迷い道」である。当日はご多忙にもかかわらず、多数の本学教職員・学生、その他の方々にご出席いただいた。また、ご講義の際には学長先生から碓井教授の本学での長年にわたるご貢献とご業績に対し、懇切なねぎらいのお言葉をいただいた。先生は心から感謝されていたと思う。

ご講義の冒頭で、先生はこのような晴れがましい席に座るのはどうかと思い、先人の例に倣って最終講義を行わないことも考えたと仰った。しかし、ご講義が進むにつれて、先生が自らの研究と人生において、どうしても等閑にできない大きな問題を長年の間抱えてこられたことが明らかとなった。これがシャイな先生をして、勇を鼓して最終講義を行わせる原動力となったと思われる。

ご講義はその題目どおり、先生の言葉に対するさまざまな見方や考え方を、ご専門であるドイツ文学者ハンス・カロッサの詩『西欧哀歌』を題材に取り上げて、韻律論的に、また文化的・政治的・経済的・さらには自然科学的な観点から、検討していかれたご研究の道筋を示唆するものであった。

先生は昭和8年（1933年）のお生まれである。この年代の方々の例に漏れず、先生は少年時代に日本の敗戦によって、つい昨日までは正しいものとして

教えられていた教科書に墨を塗らされるという衝撃的な出来事に遭遇された。敗戦による挫折感と大人たちによって裏切られたという鬱勃たる思いが、先生の心に残されたことは想像に難くない。事実、先生はご講義の中で「これからは自分の目を見て、触って、自分で間違いのないと思ったものだけを信じていきたい」と思われたと、その気持ちを吐露された。

そのような決心をされた先生が選ばれたのは、ドイツの作家ハンス・カロッサのご研究であった。カロッサは第二次世界大戦中、当時のナチス独裁政権下のドイツに留まり、命の危険もあるなかで自らの思いを貫いた作家である。同じく軍部による独裁下で育てられた先生にとって、カロッサの抱えた精神的苦痛が他人事とは思えなかったことであろう。

特に、カロッサがついにたまりかねてナチスに逆らい、辛くも絞首刑を免れたことは、先生にとっては特筆すべきことであったようである。それは先生もまた、異なる場面ではあっても、命の危険にさらされたご経験があったことと無縁ではないだろう。いわば先生自らの人生の諸問題とカロッサのそれが重なり合って、先生のご研究が成り立っていたことを、我々は今回のご講義において納得することができた。

さらに先生は本学において、非実験系をはじめとする様々な研究分野の同僚の先生方によって、広い視野を得られたこと、本学における一人の学生との出会いによって、ご自分を見つめ直す機会が与えられたことに、心から感謝され、ご講義を終えられた。先生が今後ともお元気で、ご研究が益々円熟の域に達することを願ってやまない。

# 大型機器設置報告

前 大型共同機器整備計画委員長 石田 寿昌

平成12年度に文部省（現文部科学省）が募集した私立大学等研究設備整備費補助金対象に、大型共同教育研究機器として申請した下記の装置が採択されました。本年3月末までにこれらの装置は全て導入、完備され、現在、広く利用されています。

## I インターネット教育システム

（購入価格 53,760,000円、補助金額 21,504,000円）

本システムは学生に対する情報科学教育の充実のための最新のパフォーマンスを持ったパーソナルコンピュータ（COMPAQ Deskpro EC 6466C/8,4/CDS）80台とネットワークによる情報交換の迅速化（Giga Ethernet）・セキュリティ確保と本学のメインサーバの負荷を軽減するため学術情報ネットと商用ネットに二元化するマルチホーム化のための機器よりなっています。本学では平成5年度に私立大学助成金によって導入した Macintosh 40台をフルに活用し、情報科学教育、国家試験対策教育の充実に努めてきました。しかし、近年の情報機器の飛躍的な進歩に伴うアプリケーションの進展と多様化により既存の機器では効果的な情報教育の実施が困難な状況となっていました。さらに、情報収集のためのインターネットの飛躍的な利用にともなって、本学での情報網をコントロールするためのセキュリティシステムもかなりオーバーロードの状態になっていました。本システムの導入はこのような状況を解決するためのものです。導入の結果、学生は各自1台のコンピュータを占有することができ、パソコンの処理能力の著しい向上と新規アプリケーションの導入で大きな教育効果を挙げています。

## II 遺伝情報発現解析システム

（購入価格 38,760,000円、補助金額 20,672,000円）

本システムは高感度プロテインシーケンサー、高速定量 PCR 装置、高精度超遠心機から構成されています。本学においては、各生物における生命現象の機構を解明する目的で、細胞工学、遺伝子工学、X線解析、コンピュータグラフィックスなどの手法を用いて、転写調節因子、生理活性タンパク質、酵素タンパク質などの微量生物物質の生命現象における機能解析並びにその遺伝子の発現機構に関する研究を活発に行っています。これら研究の遂行においては細胞中の当該 mRNA の変動を定量的に把握することが必須です。本システムは、PT-PCR 法による簡便かつ迅速に mRNA の定量を可能とする高速定量 PCR 装置を中心としており、今後の研究をさらに発展させるには必要不可欠なものです。試料調製に必要な高精度超遠心機、PCR 用プライマーの設計を目的とするタンパク質のアミノ酸配列解析に必要な高感度プロテインシーケンサー、および高速定量 PCR 装置からなる本システムの導入は現有設備の遺伝子解析システムとの効率的な相互利用により、生命現象に関与する種々タンパク質の機能解析研究の飛躍的な進展が期待されます。





# 平成12年度卒業者の進路状況と 平成13年度卒業予定者の進路希望調査

## 就 職 部

### 平成12年度卒業者の進路状況

21世紀を迎えて薬系大学卒業生の就職状況は、景気の低迷に加え、薬価切り下げ、患者の医療費負担増を含む医療保険制度改革及び医薬分業の急速な進展により、ドラスティックに変貌してきています。病院薬剤師の数が現状維持か削減の傾向となる一方、製薬企業の活発な新薬発売や、調剤業務を含む薬局薬剤師の需要が高まり、その結果、卒業生の就職状況が大きく様変わりしております。更に、就職協定の実質的廃止により企業の就職試験の時期が大幅に繰り上がり（一部は3年次生の2月下旬頃）、また、求人情報にインターネットを利用するところが多くなり、これらの変動に対応していかなければならない就職活動は学生にとって大変厳しい状況にあります。

このような状況下で今春卒業した学部学生332名（男性91名、女性241名）の進路状況は、（表1）に示すとおりでした。国家試験合格後に進路決定を希望する者を除き、ほぼ100%の進路決定率となっており、次のような特徴がみられます。

#### 1) 薬業関連企業

この分野への就職率は年ごとに低下傾向にありましたが、今春卒業生の場合、男性22名、女性50名で、全体の21.7%と、平成11年度（17.1%）より良くなっています。求人数の多い医薬情報担当者（MR）への決定が男性より女性が多い傾向となっておりますが、内勤領域（研究・開発、学術、品質管理、管理薬剤師）への就職はますます厳しくなっております。

#### 2) 病院・診療所および病院研修生

この職種における就職率は、従来から20数%でしたが平成9年度（20.5%）から減少傾向がみられ平成12年度は10.8%となりました。医薬分業の促進に加え、3年前に厚生省（現厚生労働省）により打ち出された病院における薬剤師の配置基準なども影響し、特に大病院では狭き領域となっております。

病院研修生（6.3%）については研修後の基幹病

院への就職が厳しくなっています。

#### 3) 薬局

調剤及びOTCを対象とする薬局への就職率は7～8年前では数%でしたが、平成12年度でほぼ6倍（26.5%）になり、最も高い就職率の業種となりました。医薬分業の進展で、保険薬局の増設が急速に進められつつあり、ここ数年はこの分野での薬剤師の需要は増大し続けるものと思われます。

#### 4) 公務員・教職員

この職域への就職率も従来より下回る傾向で1.8%でした。

#### 5) 大学院進学

大学院進学が19.6%と年度により多少変動はあるものの徐々に高まっています。これには、文部省（現文部科学省）が大学院の拡充を強力に推し進めていることや、薬系大学の修業年限の延長が議論されていることなどが影響していると思われます。

#### 6) その他

この項の44名の多くは、薬剤師免許取得後にそれを必要とする職種（例えば病院・薬局）への就職を決めようとする者であり、薬剤師国家試験が難しくなっている状況からこのような考え方の学生が多くなっています。この場合でも、薬剤師免許を取得すれば、その後には全員就職が決定しています。

一方、大学院修了生の就職は各担当教員の指導のもとで決定され、平成13年3月修了の大学院学生（25名）の場合も、ほぼ100%の就職率となっておりますが、職種内容の多様化で、「数」より「質」を優先する厳選採用の流れは、さらに強まっています（表2）。

学部卒業生及び大学院修了生の就職先を、（表3）にまとめました。

平成13年度卒業予定者の就職ガイダンスと進路希望調査

新世紀を迎え景気回復傾向を追い風に明るさが取り戻されています。就職協定廃止5年目を迎えた今年の企業の採用活動は、早期化、長期化、多様化がさらに進む見通しであります。この状況に対応すべく新4年次生には、すでに3年次に3回にわたり就職ガイダンス（平成12年9月、12月、平成13年1月）を行いました。第3回目には、本学では3回目の試みとして、製薬企業22社および薬局12社の参加と協力を得て学内で企業説明会を実施しました。また、3～4月には学生の職種選択と就職活動の一助として、希望職種別に昨年度の求人先、時期等について紹介しながら、個人面談を行いました。

新4年次生の人数は昨年度とほぼ同数の331名（男性115名、女性216名）で、その進路希望調査結果（表4）によれば、製薬関連企業（MR、内勤）、病院、薬局および大学院進学へのウエイトが各々21～24%と4本柱になっているのが特徴です。

（表1）平成12年度 学部卒業生（48期生）進路状況  
（平成13年3月31日現在）

区分	男性	%	女性	%	合計	%
製薬関連企業（MR） （内勤）	21	23.1%	31	12.9%	52	15.7%
	1	1.1%	19	7.9%	20	6.0%
病院・診療所	4	4.4%	32	13.3%	36	10.8%
研修生	1	1.1%	20	8.3%	21	6.3%
薬局	13	14.3%	75	31.0%	88	26.5%
公務員			5	2.1%	5	1.5%
教職			1	0.4%	1	0.3%
大学院・研究生	38	41.7%	27	11.2%	65	19.6%
その他	13	14.3%	31	12.9%	44	13.3%
合計	91	100.0%	241	100.0%	332	100.0%

（表2）平成12年度 大学院修士課程修了生（25期生）進路状況  
（平成13年3月31日現在）

区分	男性	%	女性	%	合計	%
製薬関連企業（MR） （内勤）	10	71.5%	1	9.1%	11	40.0%
	6	54.5%	6	54.5%	16	64.0%
病院・診療所	1	7.1%			1	4.0%
研修生						
薬局	2	14.3%	3	27.3%	5	20.0%
公務員						
教職						
大学院・研究生						
その他	1	7.1%	1	9.1%	2	8.0%
合計	14	100.0%	11	100.0%	25	100.0%

実際の就職活動は、すでに3月頃から開始され、製薬関連企業（MR）を中心として就職先が決まりつつあります。今後は保険薬局・ドラッグストアのセミナーなどが活発化していくものと思われます。今年の製薬関連企業（MR）の求人状況は例年より明るさが見えてきましたが、病院は昨年と同様に厳しく、その反面、保険薬局、ドラッグストアなどでは求人が激増することが予測され、この変動に学生がいかに対応するかが就職率アップの鍵となると思います。

学生にとって就職は、自ら学んできたことを糧に社会に旅立つ重要な第一歩であります。就職部では、従来通り学生一人ひとりの適性や能力に応じたキメ細かな就職指導、相談を行い、学生が満足のいく就職活動ができるように努力しております。関係各位におかれましても本学学生の就職につきましてご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

（表3）平成12年度（学部・大学院）卒業・修了生進路先  
企業（MR）（合計人数の括弧内は院生数で外数）

アストラゼネカ	帝人
アベンティスファーマ	日本イーライリリー
ウエルファイド	日本ベーリンガーインゲルハイム
小野薬品工業	日本メナード化粧品
小杏林製薬	日本ロシニエ
興和製薬	日本ワイスレダリー
三野義製薬	バイエル薬品
塩野義製薬	万有製薬
住友製薬	ファイザー製薬
大正製薬	藤沢薬品工業
ダイナボット	扶桑薬品工業
大日本製薬	ブリistolマイヤーズスクイブ
武田薬品工業	明治製菓
田辺製薬	山之内製薬
中外製薬	ヤンセン協和
ツムラ	
	合計 52(1)人

企業（内勤）

アズウェル	セブン化学
EMシステムズ	ダイヤ製薬
エバール	武田分析研究所
小野薬品工業	日本製薬
環境バイリス研究所	日本中毒情報センター
協和発酵工業	ビオフェルミン製薬
クラヤ三星堂	ビーブランド・メディコ・デンタル
サラヤ	藤本製薬
剤盛堂薬品	扶桑薬品工業
塩野義製薬	丸石製薬
新日本科	マール
	合計 20(16)人

病院

あさひ病院  
 茨木医誠会病院  
 うえだ下田部病院  
 大分中村病院  
 オリオノ和泉病院  
 岸和田徳洲会病院  
 岐阜大学医学部附属病院  
 京都大学医学部附属病院  
 近畿大学医学部附属病院  
 草津病院  
 草津総合病院  
 久野病院  
 倉敷中央病院  
 佐世保中央病院  
 神鋼加古川病院  
 総合大雄会病院

太子病院  
 大東中央病院  
 大和病院  
 大和中央病院  
 武田病院  
 多根総合病院  
 大分県厚生連 鶴見病院  
 天理よろづ相談所病院  
 日本赤十字社和歌山医療センター  
 日本橋病院  
 枚岡病院  
 府中病院  
 ベルランド病院  
 松原徳洲会病院  
 水口病院  
 淀井病院

合計 36(1)人

公務員・教職員

国立大阪病院  
 大垣市  
 市立長浜病院

公立御津病院  
 神戸学院大学(助手)

合計 6(0)人

病院研修生

大阪大学医学部附属病院  
 金沢大学医学部附属病院  
 関西医科大学附属病院  
 九州大学医学部附属病院  
 京都大学医学部附属病院  
 京都府立医科大学附属病院

神戸大学医学部附属病院  
 滋賀医科大学医学部附属病院  
 和歌山県立医科大学附属病院  
 厚生労働省研修薬師(関西医科大学附属病院)  
 厚生労働省研修薬師(国立循環器病センター)

合計 21(0)人

薬局

アイ調剤薬局  
 あい薬局  
 アインファーマシーズ  
 旭調剤薬局  
 育星薬局  
 五ツ星薬局  
 今川薬品  
 イレブン  
 宇野薬品  
 オカモト調剤  
 岡山医学検査センター  
 オーティ薬局  
 回生堂薬局  
 京都調剤薬局  
 キリン薬局  
 薬日本堂  
 クラフト  
 弘陽薬品  
 コクミ  
 コスモイ  
 ゴダ  
 サエラ  
 サンドラッグ  
 シミズ薬品  
 ジャスコ  
 白沢ドラッグ

スギヤマ薬品  
 セガミメディクス  
 泉州保健医薬研究所  
 センター薬局  
 総合メディカル  
 ダイコク薬品  
 高田薬局  
 たんぼ薬局(岐阜市)  
 寺島薬局  
 東京物産  
 同仁メディカル  
 ナガトミ薬品  
 並松薬局  
 ニッシュードラッグ  
 日本調剤  
 ハザマ薬局  
 阪急共栄物産  
 阪神調剤薬局  
 ファーコス  
 フォルサム  
 松ノ木薬品  
 マツモトキョシン  
 マルゼン  
 メディコ21  
 ユタカファーマシー

合計 88(5)人

大学院・研究生

大阪大学  
 大阪薬科大学  
 岡山大学  
 金沢大学  
 九州大学  
 京都薬科大学  
 神戸大学  
 神戸薬科大学

千葉大学  
 東北大学  
 徳島大学  
 富山医科薬科大学  
 長崎大学  
 奈良先端科学技術大学院大学  
 和歌山県立医科大学(研究生)

合計 65(0)人

(表4) 平成13年度 卒業予定者進路希望調査状況  
 (平成13年4月6日現在)

区分	男性	%	女性	%	合計	%
薬業関連企業 (MR)	25	21.7%	19	8.8%	44	13.3%
(内勤)	7	6.1%	17	7.9%	24	7.2%
病院・診療所	9	7.8%	65	30.1%	74	22.4%
研修生			11	5.1%	11	3.3%
薬局	20	17.4%	58	26.9%	78	23.6%
公務員	7	6.1%	5	2.3%	12	3.6%
大学院・研究生	40	34.8%	34	15.7%	74	22.4%
自家業・その他	7	6.1%	7	3.2%	14	4.2%
合計	115	100.0%	216	100.0%	331	100.0%

# 第86回薬剤師国家試験の結果

前 薬剤師国家試験対策委員長 中 元 安 雄

第86回薬剤師国家試験問題の内容については、「基礎薬学」(60問)の化学系では、細かい設問だが、基礎事項を充分理解していれば解答でき、生物系では基礎学力をみる問題で総体的には「考えさせる問題」が多く出題されている。「衛生薬学」(40問)では、保健衛生、栄養化学、食品衛生など広範な知識を問う問題で良問と言える。「薬事関係法規」(20問)では、従来とあまり大きな変化はなかったが、易しくはなかった。「医療薬学1」(60問)では、作用機序などの臨床を意識させる問題も出題され、少し難しいと思われるが、基礎的知識があれば解答でき、薬剤系では、計算問題も少なく、広く浅く、いろいろな角度から問う問題である。「医療薬学2」(60問)では、去年と同傾向であり基礎的知識を理解していれば解答でき、製剤、調剤も大きな変化はなかった。その結果、総括的には難易度は去年(79.14%)と比較して今回(77.30%)は少し難しかったようである。

表1には、新卒の合格率(80.12%)などが表示

表1【第86回薬剤師国家試験】

区分	出願者(人)	受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)	
新 卒	男	97	91	67	73.63%
	女	251	241	199	82.57%
	計	348	332	266	80.12%
その他卒	計	91	83	34	40.96%
総 数	439	415	300	72.29%	
私 立		8,658	6,693	77.30%	
全 国		10,683	8,108	75.90%	

表2【特別再試験受験者別】

区分	特別再試験受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)
男	64	43	67.19%
女	88	59	67.05%
計	152	102	67.11%

してあり、特に問題となる点は、既卒者の合格率が去年(59.83%)から今回(40.96%)と著しい減少を示したことです。既卒者の対策が望まれます。

表2、表3で分かるように、再試験受験者の成績不振です。このことは表4からも明らかで、Cクラス(60.81%)とA、Bクラスとの明らかな相違です。前期からのきめこまかい再教育が必要と考えます。表5からは、大学院学生の不合格者が増加(去年5名が今回11名)したことです。大学院学生は4年次生を指導する立場にあり、全員合格しなければいけないという自覚を持って欲しいものです。

本年度の対策は現委員長の玄番教授を中心に行い、90%以上の合格を期待しておりますが、根本的には1、2、3年次からのきめこまかい実力養成が第一と考えます。

表3【薬学総合演習再試験受験者別】

区分	薬総再試験受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)
男	82	61	74.39%
女	165	128	77.58%
計	247	189	76.52%

表4【薬学総合演習クラス別】

区分	受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)	
A	男	10	10	100.00%
	女	89	88	98.88%
	計	99	98	98.99%
B	男	37	31	83.78%
	女	115	91	79.13%
	計	152	122	80.26%
C	男	42	26	61.90%
	女	32	19	59.38%
	計	74	45	60.81%

表5【本学大学院入学者別】

区分	受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)
男	29	20	68.97%
女	13	11	84.62%
計	42	31	73.81%

## 特別講演会「民族と人権」を終えて

前 人権委員長 稲 森 善 彦

人権委員会は本学の学生、教職員を対象に人権についての啓発・研修をおこなって、人権教育のいっそうの推進に努めてきました。そのひとつの大きな柱として、1997年度より学外から講師をお招きして「人権に関する特別講演会」を大学主催のもとに開催してきました。2000年度はその第4回目にあたり、現代日本社会における最大の人権問題のひとつであります「在日」韓国・朝鮮人と人権の問題を扱うことにしました。奇しくも20世紀最後の年にあたり、20世紀の問題は20世紀に解決を図るという熱意のもと朝鮮で南北の対話が劇的に進みつつある中でこのテーマが選ばれることになりましたことは、偶然とは言えその根底に歴史の必然を見る思いがいたしております。

特別講演会は「民族と人権」と題して、在日ハンゲル詩人として活躍されておられますキム・リバク先生を講演者としてお招きし、2000年12月18日に開催いたしました。キム先生は1992年より在日韓国文人協会会長に就任され、在日同胞の民族の誇りと文化を大切になさりながら幅広く活躍なさっております。

第1回の講演会では、歴史家であられる脇田修先生（大阪大学名誉教授）が日本社会の歴史的展望の中で部落差別問題を取り上げて、差別の根源とその乗り越えの可能性について歴史的・客観的立場から講演していただきました。それに対して今回は、過去3回の講演会を踏まえながら、日本社会の差別の構造のただ中で差別を被り苦しんでおられる人々の視点を通して人権の問題に迫ろうと考えました。キム先生にその旨をお伝えし講演の依頼を申し上げましたところ、このような当方の過大な要望にもかかわらず、先生は私たちの提案を心暖かく受けとめてくださり、今回の講演会が成立いたしましたことは、先生にいくら感謝申し上げても足りない思いがいたしております。

キム先生は講演で「在日」韓国・朝鮮人の歴史と現状そして将来への展望を的確にそして熱情あふれる言葉で語られました。とりわけ文人としての先生は母国語を書き話すことを奪われた民族の苦しみ



について触れられ、言葉が魂であり、民族の身体そのものであることを強調され、韓国・朝鮮語を受け継いでいく民族教育の重要性を訴えられ、私たちにその理解を求められました。

「人権は命であり、人権は生活に根付いていなければ実現しない。人権は美しくなければならない。人間を愛することは美しいことだからである。そして人権とは何よりもまずすばらしい文化なのだ。」  
「日本人が日本人だけで、在日朝鮮人・韓国人が在日朝鮮人・韓国人だけで、人権の旗を立てることはできません。お互いが手を取り合って初めて自分の心の丘に人権という旗を立てることができるのです。」  
先生のこの心の底から絞り出されてくる魂の言葉は私たち一同の心を深く打ち、講演後の今でも止むことなく私たちの心に響き続けています。

さて、最初に人権特別講演を聴講した学生諸君も2001年3月には卒業していきました。人権教育の成果は着実に上がっているものと確信しておりますが、一層の推進を図って新たな企画が準備される必要があるかと考えているところです。すなわち、人権問題の大きなテーマとしては部落問題、「在日」韓国・朝鮮人問題、女性問題、少数民族問題、障害者問題が挙げられますが、それらを一括して差別と人権の問題として全学的に考えていく試みが要請されているように思います。

押しつけの人権教育ではなく、相互にその人格の尊厳を絶対的なものとして認め合う真の人権についての教育体制をよりしっかりと築いていくことの重要性を噛みしめているところです。

# 平成13年度入学試験結果と平成14年度入学試験概要

入試・広報課

## ■ 平成13年度 入学試験結果

	AO入試 (A方式)			推薦入試 (S方式) (一般公募制)			センター試験 利用入試 (C方式)			一般入試 I (F方式)		
入学定員	240 名											
募集人員	10 名			50 名			20 名			80 名		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
志願者	42	50	92	103	259	362	300	718	1,018	291	622	913
受験者	13	26	39	103	257	360	300	718	1,018	286	613	899
合格者	3	8	11	11	54	65	35	135	170	56	168	224
入学者	3	8	11	8	36	44	3	13	16	24	58	82

## ■ 平成14年度 入学試験概要

	AO入試 (A方式)	推薦入試 (S方式)	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)	編入試 (H方式)
募集人員(薬学部)	10 名	50 名	若干名	若干名
出願開始日	平成13年 9 月 3 日(月)	平成13年11月 1 日(木)	平成13年10月24日(水)	平成13年 8 月 20 日(月)
出願締切日	平成13年 9 月 18 日(火)	平成13年11月 7 日(水)	平成13年10月31日(水)	平成13年 8 月 30 日(木)
入学試験日	※第二次選考 平成13年10月21日(日)	平成13年11月11日(日)	平成13年11月11日(日)	平成13年 9 月 8 日(土)
合格発表日	平成13年10月31日(水)	平成13年11月20日(火)	平成13年11月20日(火)	平成13年 9 月 18 日(火)
入学手続締切日	平成13年11月22日(木)	平成13年12月25日(火)	平成13年12月25日(火)	(2段階方式) 1次 平成13年 9 月 28 日(金) 2次 平成13年12月25日(火)
試験場	本学	本学	本学	本学
試験内容 (時間・配点)	第一次選考 [書類審査] 自己アピール書 課題レポート 各種証明書 推薦書 調査書 第一次選考結果発表 10月5日(金) ※第二次選考 [基礎学力確認] 化学 I B, 生物 I B から 1 科目選択 [面接]	[総合科目 1 (理科)] 90分 150点 [総合科目 2 (外国語)] 75分 100点 [小論文] 75分 100点 [調査書] 150点	[総合科目 1 (理科)] 90分 [総合科目 2 (外国語)] 75分 [小論文] 75分 [面接]	[基礎教育分野に関する試験] 100点 [基礎薬学分野に関する試験] 300点 [面接]
判定	提出書類, 基礎学力確認及び面接を総合して判定する	学力確認 (500点満点) 及び提出書類を総合して判定する	学力確認, 面接及び提出書類を総合して判定する	学力試験 (400点満点), 面接及び提出書類を総合して判定する

	一般入試Ⅱ (G方式)			帰国生徒 特別選抜入試 (K方式)			合 計			編入試 (H方式)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
入学定員	240 名						240 名					
募集人員	80 名			若干名			240 名			若干名		
志 願 者	638	982	1,620	0	0	0	1,374	2,631	4,005	5	2	7
受 験 者	584	848	1,432	0	0	0	1,286	2,462	3,748	5	2	7
合 格 者	124	180	304	0	0	0	229	545	774	3	2	5
入 学 者	51	76	127	0	0	0	89	191	280	3	2	5

	センター試験利用入試 (C方式)	一般入試Ⅰ (F方式)	一般入試Ⅱ (G方式)
募集人員(薬学部)	20 名	80 名	80 名
出願開始日	平成14年 1 月 8 日(火)	平成14年 1 月 8 日(火)	平成14年 1 月 8 日(火)
出願締切日	平成14年 1 月17日(木)	平成14年 1 月24日(木) 平成14年 1 月25日(金)のみ持参可	平成14年 2 月 4 日(月) 平成14年 2 月 5 日(火)のみ持参可
入学試験日	平成14年 1 月19日(土) 平成14年 1 月20日(日)	平成14年 2 月 1 日(金)	平成14年 2 月 9 日(土)
合格発表日	平成14年 2 月 7 日(木)	平成14年 2 月 7 日(木)	平成14年 2 月16日(土)
入学手続締切日	(2段階方式) 1次 平成14年 2 月22日(金) 2次 平成14年 3 月22日(金)	(2段階方式) 1次 平成14年 2 月22日(金) 2次 平成14年 3 月22日(金)	(2段階方式) 1次 平成14年 2 月22日(金) 2次 平成14年 3 月22日(金)
試 験 場		本学・大阪予備校・広島国際会議場	本学・大阪予備校
試験内容 (時間・配点)	センター試験利用科目 [外国語] 英語 200点 [数 学] 数学Ⅰ・数学A 100点 数学Ⅱ・数学B 100点 [国 語] 国語Ⅰ, 国語Ⅱから1科目 選択 100点 (近代以降の範囲に限定) [理 科] 化学ⅠB, 生物ⅠB, 物理ⅠBのう ち高得点科目1科目を採用 200点  個別学力試験は実施しない	[理 科] 90分 100点 化学(化学ⅠB、化学Ⅱ) 生物(生物ⅠB、生物Ⅱ) から1科目選択 [外国語] 75分 75点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数 学] 75分 75点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A(数と式、数列) 数学B(ベクトル、複素数と複素数 平面) [調査書] 150点	[理 科] 90分 100点 化学(化学ⅠB、化学Ⅱ) 生物(生物ⅠB、生物Ⅱ) から1科目選択 [外国語] 90分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数 学] 90分 100点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A(数と式、数列) 数学B(ベクトル、複素数と複素数 平面)
判 定	センター試験の成績(700点満点)及び提出書類を総合して判定する	学力試験等(400点満点)及び提出書類を総合して判定する	学力試験(300点満点)及び提出書類を総合して判定する

# 環境整備事業について

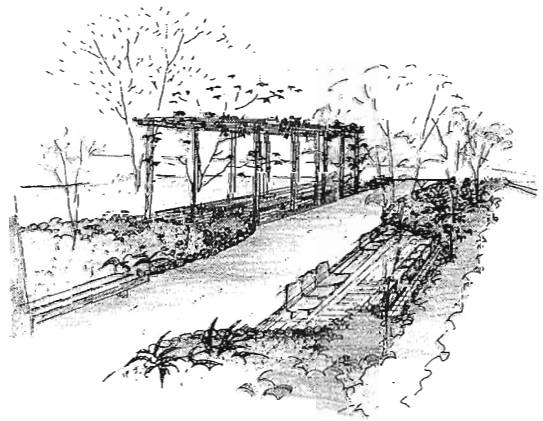
前 環境保全委員長 石 田 寿 昌

環境保全委員会では学内の緑化整備事業に年次計画で取り組んでいます。昨年度は、卒業式や入学式に華やかさを与えると共に、記念撮影のスポットとしての場所を提供する意味で、学生が多く集まる時計台周辺に3～4月に花を咲かせる樹木を数多く植栽しました。

本年度は守衛室裏の芝生広場の周辺に遊歩道を設け、周囲に四季折々の花を咲かせる樹木の植栽と、学生がその下で憩えるように数カ所の藤棚とベンチの設置を行います。これは、学生からの要求にも応えるため、授業時間外にできるだけ外で休息（昼食場所としても利用）できる場所と自然学習の場の提供を目的としております。全体的に見た植栽工事の特徴としては、学生が自然に対する興味と関心を持てるように、自然樹木と自然の多年草を組み合わせた自然植栽形式を取り入れたことにあります。植栽する樹木の選定には特に気を配りました。長年にわたって薬用植物の世話をされてきた喜多講師（本年3月末退職）にお願いし、樹木と多年草はできる限り強い光に耐える植物、日陰に耐える植物、そして乾燥に耐える植物などを考慮して選定していただくと共に、その植樹場所としては遊歩道が全体的に木陰になるようにレイアウトしていただきました。さらにまた、全体的な景観に配慮し、低木、中木、高木、落葉樹、常緑樹、花の美しい植物、果実の美しい植物、紅葉の美しい植物などを配置し、年間を通して鑑賞できるよう工夫していただきました。そして、自然的な景観を高めるため、遊歩道の両側の縁取りに自然石を配しました。また、植物に対する知

識と興味を持たせるよう全植物に樹名札を設置しています。

近年、自然離れが進むにつれて心に余裕のない若者が増えていると言われております。豊かな心を持つためには自然に入り自然を学ぶ情操教育の必要性・重要性が認識されつつあります。この植栽工事によって多くの学生に心の安まる場を提供できればと願っています。なお、この事業には育友会および同窓会のご協力をいただきました。ここに御礼申し上げます。



遊歩道イメージスケッチ



## 2001年度からの公開教育講座

公開教育講座委員長 掛見正郎

本学主催の公開教育講座は、1983年に卒後教育講習会として発足以来本年度で19年目になる。これは全国薬科大学の公開教育講座としては最も長い歴史を持つものの一つで、これまでの参加者も極めて多数にのぼる。1992年からは「薬剤師のリカレント教育」に方向転換すると共に、全国に先駆けて（財）日本薬剤師研修センターとの共催を打ち出すなど、本学の公開教育講座は常に新しい局面を切り開く役割を演じてきた。しかしながら、近隣の薬科大学でも同様な公開教育講座を開設し、日本薬剤師研修センター、薬剤師会、病院薬剤師会の単位認定も、日本薬学会、日本医療薬学会、日本薬物動態学会などの年会でも簡単に受けられるようになった今、単にこれら「講演会を企画」し「単位認定」をするだけが、本学の公開教育講座の使命ではないと考えるようになってきた。この数年、病院薬剤師、保険薬局薬剤師の意識は大きく変化し、また薬科大学主催の公開教育講座に要求する「内容」と「質」も極めて多様化しているにもかかわらず、本学の公開教育講座は必ずしもこれらの要求に適ったものを提供してこなかったのではないかという反省がある。この2～3年、本学の公開教育講座への参加者が「漸減」というより「激減」していることを考えると、少なくとも「公開教育講座のありかた」を根本から見直す時期にきていることは事実である。そこで本年度の公開教育講座委員会（田中教授、馬場助教授、中元助教授、藤田助教授、楠瀬助教授、西野講師）では、まず「公開教育講座のありかた」について広く討議を開始することとした。残念ながらまだ結論を得るには至っていないが、その基本方針は、公開教育講座を「薬剤師のリカレント教育」の部分と、本来の意味である「大学教育の公開」に立ち返った「本学教員による公開講座」の二本立てにすることとし、①出来る限り多くの人々が参加しやすい条件整備を行うこと、②講演の聞き流しを避け、復習が可能な「講演記録」を残すこと、③主催者側の「効率」よりも参

加者への「効果」を優先した講演規模と講演形式を模索することなど、を中心に見直し作業を急ぎたいと考えている。また、「薬剤師のリカレント教育」については、これまで病院薬剤師を主なターゲットにして公開教育講座を開催してきたが、本年度からはこれら講演会の他に、保険薬局薬剤師、在宅薬剤師（いわゆるタンス薬剤師）の再教育プログラム（実習を含む）を立ち上げたいと考えている。これらの詳細については後日報告する予定である。

なお、本年度最初の公開教育講座は、下記の通り5月19日（土）に開催予定である。これは前年度委員会からの申し送り事項であるので、本年度委員会による開催は、今秋以降になることを申し添える。

### 第28回 公開教育講座

「メディカル・リスク・マネージメント」

一医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院

での取り組み一

開催日時：平成13年5月19日（土）

13時30分～17時30分

開催場所：大阪薬科大学 講堂

受講料：本学卒業生 1回 2,000円

その他 1回 3,000円

受講方法：当日受付のみとなります

\* \* \* \* \*

○13時40分～14時40分

「ナースの立場から」

八尾徳洲会総合病院 看護部長 高橋昭美

○14時50分～15時50分

「医師の立場から」

老人保健施設八尾徳洲苑 施設長 酒井 敬

○16時00分～17時00分

「薬剤師の立場から」

八尾徳洲会総合病院 事務部長 尾崎勝彦

○17時00分～17時20分 質疑応答

## □ 平成13年度 市民講座 □

市民の方を対象として開催している市民講座を、本年も2回開講する予定であります。講演内容は、できるだけ参加者の皆様のアンケート結果を参考に決めています。

同時に、「くすりの相談室」（第1線でご活躍中の薬剤師の方が、くすりに関するどのような相談にも応じております）の併設、「薬用植物園の見学」も行われており、是非ともご近所の方に参加していただけるよう、お勧めください。

### 大阪薬科大学 第11回市民講座

開催日時：平成13年5月26日（七）

13時30分～16時50分

開催場所：大阪薬科大学 講堂

定員：約350名（申込不要／先着順）

入場料：無料

講演：

「糖尿病予防のための食事—何をどう食べるか—」

特定医療法人社団仁真会白鷺病院

栄養管理科長 上嶋 章子

「生活習慣病としての糖尿病—その予防と治療について—」

りんくう総合医療センター市立泉佐野病院

代謝内科部長 小松 良哉

### 大阪薬科大学 第12回市民講座

開催日時：平成13年11月17日（土）

13時30分～16時50分

開催場所：大阪薬科大学 講堂

定員：約350名（申込不要／先着順）

入場料：無料

講演：

「健康食品とくすりの飲み合わせ」

大阪薬科大学天然医薬資源学研究室

助教授 馬場きみ江

「老人と健康管理」

元堺市衛生研究所長

神木 照雄

## 平成13年度 科学研究費補助金採択状況

	職名	氏名	研究種目	研究課題	配分額 (千円)
継続	教授	栗原 拓史	基盤研究(C)	新規ヒスタミン H <sub>3</sub> アゴニスト Imifuramine の開発とその展開	600
	助教授	三野 芳紀	基盤研究(C)	ダイオキシン類の生物分解と無毒化に関する基礎研究	700
	助教授	松村 靖夫	基盤研究(C)	エンドセリン ET <sub>B</sub> 受容体の病態学的役割	900
	教授	沼田 敦	基盤研究(C)	海洋生物由来菌類の産生する抗腫瘍性シード化合物の探索と開発	1,500
	助手	大石 宏文	基盤研究(C)	Polyamine と Z-DNA の相互作用に関する分子動力学およびX線構造研究	600
	助教授	井上 晴嗣	基盤研究(C)	毒ヘビの血液に存在する3種のホスホリパーゼ A <sub>2</sub> 阻害タンパク質の構造と機能	700
	助手	平田 雅彦	奨励研究(A)	癌ならびに痴呆の超早期診断を目指したMAPキナーゼ活性診断用新規放射性薬剤の開発	500
新規	助教授	大桃 善朗	基盤研究(C)	脳神経疾患におけるシグマレセプター機能解析のためのインビボ核医学診断剤の開発	1,400
	教授	千熊 正彦	基盤研究(C)	シスプラチン耐性がんの有効な新規複核白金錯体と核酸との相互作用に関する研究	2,400
	教授	石田 寿昌	基盤研究(C)	タウ蛋白質の立体構造解析に基づくタンブル形成機構の解明	2,100
	助手	浅野 晶子	奨励研究(A)	Asciadiacyclamide 及びその誘導体の活性型コンフォメーションの探索	1,100
合計	11名				12,500

## 総務課だより

### ◇ 実験動物慰霊祭

平成12年12月13日（水）12時30分より講堂において、日頃実験動物を取り扱っている教職員、学生等約300名参加のもと、実験動物慰霊祭がしめやかに執り行われた。

### ◇ 最終講義

下記のとおり、最終講義が行われた。

碓井 信二 教授

日時 平成13年3月21日（水）午後1時

演題 「言葉の迷い道」

場所 講義室2 A

### ◇ 退職記念パーティー

平成13年3月21日（水）午後5時より大学会館において、碓井信二教授、喜多俊二講師、河野光次事務局長、伊藤美雄事務局次長、堤富美夫事務職員の退職記念パーティーが開催された。



### ◇ 卒業式・学位記授与式

平成13年3月10日（土）午前10時30分より体育館において、平成12年度大阪薬科大学薬学部卒業式並びに大学院学位記授与式〔学部332名、大学院博士前期(修士)課程25名〕が来賓・保護者多数参列のもとに挙行された。

### ◇ 入学式

平成13年4月4日（水）午前10時30分より体育館において、平成13年度大阪薬科大学薬学部並びに大学院入学式〔学部285名(編入学5名を含む)、大学院博士前期(修士)課程42名〕が来賓・保護者多数参列のもとに挙行された。



### ◇ 慶弔

#### 【叙勲】

西村 壯一 理事長 平成13年4月29日  
勲三等瑞宝章受章  
勢川瑠美子 非常勤講師 平成13年4月29日  
勲五等宝冠章受章

#### 【訃報】

村田 君江 評議員 平成13年2月20日逝去  
従五位勲四等瑞宝章受章

## 教務課だより

### ◇ 学位授与

#### [博士]

論博第29号 博士(薬学) 佐藤 浩史

4'-チオヌクレオシドの合成及びその生物活性に関する研究

(平成12年12月27日付)

論博第30号 博士(薬学) 中田 功二

アシタバ (*Angelica keiskei* KOIDZUMI) の成分に関する研究

(平成13年4月17日付)

論博第31号 博士(薬学) 佐伯 佳子

転移能の異なるマウス肝癌細胞株をもちいた血行性転移のメカニズムの解明に関する研究

(平成13年5月8日付)

論博第32号 博士(薬学) 朝倉 賢治

$\omega$ -アガトキシン IVA感受性 P/Q 型カルシウムチャンネルの病態薬理学的研究

(平成13年5月8日付)

————— ◇ —————

#### [修士]

修士(薬学) 男性 14名 女性 11名 合計 25名

(平成13年3月10日付)

————— ◇ —————

#### [学士]

学士(薬学) 薬学科 175名 製薬学科 157名  
男性 91名 女性 241名 合計 332名

(平成13年3月10日付)

## 平成13年度 前期行事予定

- 4. 4(水) 入学式(学部・大学院)
- 4. 5(木) 新入生ガイダンス・アドバイザー面談
- 4. 6(金) 校医講演・新入生健康診断・奨学金ガイダンス
- 4. 9(月) 前期授業開始
- 4.10(火) 健康診断(新入生以外の学生・職員の女性)
- 4.11(水) 健康診断(新入生以外の学生・職員の男性)
- 4.13(金) 前期選択科目・選択必修科目履修届提出締切  
午後3時(教務課)
- 4.18(水) 第86回薬剤師国家試験合格者発表(厚生労働省)
- 4.27(金) 薬学総合演習オリエンテーション(4年次生)
- 5. 9(水) 創立記念日(休業)
- 5.11(金) 新入生歓迎会(五月祭)〔午後臨時休講〕
- 6.15(金) 前期授業終了(4年次生)
- 6.16(土) 学友会球技大会
- 6.20(水) } 前期定期試験(4年次生)
- 6.29(金) }
- 7. 2(月) 前期定期試験(4年次生)欠席届提出締切  
午後1時(教務課)  
平成14年度大学院修士課程推薦入学試験
- 7. 6(金) 前期授業終了(1~3年次生)
- 7. 9(月) 平成14年度大学院修士課程推薦入学試験合格者発表
- 7. 9(月) } 前期定期試験(1~3年次生)
- 7.19(木) }
- 7.23(月) 前期定期試験(1~3年次生)欠席届提出締切  
午後1時(教務課)
- 8.20(月) 平成14年度大学院修士課程一般入学試験
- 8.24(金) 前期再試験受験者発表(4年次生)
- 8.27(月) 平成14年度大学院修士課程一般入学試験合格者発表
- 8.31(金) 前期再試験受験者発表(1~3年次生)
- 8.31(金) } 前期再試験(4年次生・1~4年次全科目)
- 9.17(月) }
- 9. 6(木) } 前期再試験(1~3年次生)
- 9.21(金) }
- 9. 8(土) 平成14年度編入学試験(H方式)
- 9.18(火) 平成14年度編入学試験(H方式)合格者発表
- 9.25(火) 後期授業開始(1~3年次生)
- 9.26(水) 特別再試験受験者発表(4年次生)
- 9.28(金) 就職ガイダンス(3年次生)

## 図書館だより

### ◇ 利用者用端末を増設

学生に少しでも端末機に慣れ親しみながら、情報検索をしてもらうため、4月より新着雑誌架の向かいに図書検索用端末（OPAC）2台、インターネット検索用端末2台を増設しました。

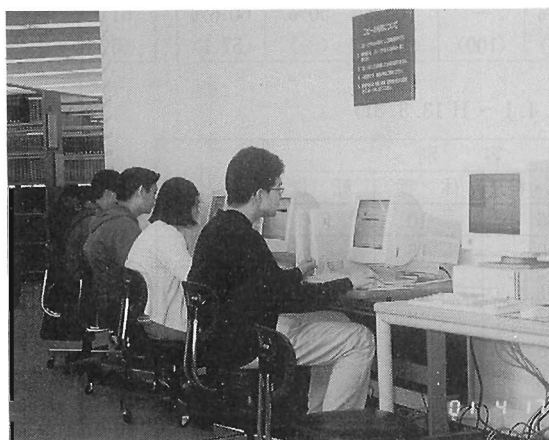
図書検索は蔵書データの入力ほぼ終了し、従来よりも幅広く図書を探せるようになり、画面も見やすくなっています。

インターネット検索は今や学術情報入手のツールとして欠かせないものとなり、文献情報や学会情報など図書だけでは得られない速報性を持っています。

まだ台数が少ないので、たくさんの方が利用できるよう、マナーを守ってご活用ください。

今後もしできる限りより良い環境で情報検索ができるように端末機を増やしていく予定にしています。

なお、新着図書情報やオンラインジャーナルへのリンクなどを図書館インフォメーションページ (<http://lib2>) で紹介していますのでご利用ください。



検索機利用風景

## 学生課だより

### ◇ 平成13年度 学友会執行委員会

執行委員長	浦嶋 和也	サッカー部
副執行委員長	松本めぐみ	弓道部
総務局長	宮本 実幸	旅行写真部
広報渉外局長	山本 佳奈	レボリューション
厚生局長	古本 陽子	ソフトテニス部
体育局長	林 克紀	ハンドボール部
文化局長	熊井 仁美	コーラス部
会計	細見 真希	硬式庭球部

### ◇ 平成13年度 大葉祭実行委員会

実行委員長	川西 秀明	硬式野球部
副実行委員長	前田 貞治	フィールドウォーカーズ部
総務局長	宮本 実幸	旅行写真部
イベント部長	神野伸一郎	バドミントン部
広報部長	熊井 仁美	コーラス部
装飾部長	細見 真希	硬式庭球部

\* \* \* \* \*

### ◇ 平成13年度の学生相談室について

4月から相談日を1日増やして、週2日開室しています。卒業までの大学生活で直面する問題について、一人で悩まずに気軽に学生相談室を訪ねてください。

#### 【開室時間】

月曜日 14:30 ~ 17:20

木曜日 12:10 ~ 15:00

相談には、臨床心理士があたります。プライバシーは厳守されますので、学生の皆さんの不利になることはありません。

直通電話は、(0726) 90-1077 です。

## ◆ 健康管理について

毎年4月上旬に、学校保健法、結核予防法に基づいて、定期健康診断が行われます。健康な学生生活を送るためにも必ず受診するようにしてください。ちなみに、平成13年度の受診状況は次の通りとなっています。

また、けがや急病などに対処するため本部・図書館棟1階に保健室が設けられています。医薬品、ベッド、車椅子をはじめ全自動身長体重計、全自動血圧計などが備えられています。この保健室には、看護婦が常駐し、応急手当や病院の手配を行うほか、健康相談や指導も行っています。平成12年度の利用状況は次の通りです。

平成13年度学生定期健康診断受診状況 (4/6, 10, 11)

※全項目受診者数

区 分	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	M 1	M 2	D 1	D 2	D 3	総 計	
男性	$\frac{89}{91}$	$\frac{32}{91}$	$\frac{23}{118}$	$\frac{99}{115}$	$\frac{28}{29}$	$\frac{23}{25}$	—	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{296}{472}$	
女性	$\frac{190}{192}$	$\frac{39}{216}$	$\frac{35}{207}$	$\frac{187}{216}$	$\frac{8}{13}$	$\frac{15}{18}$	—	—	—	$\frac{474}{862}$	
計	$\frac{279}{283}$	$\frac{71}{307}$	$\frac{58}{325}$	$\frac{286}{331}$	$\frac{36}{42}$	$\frac{38}{43}$	—	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{770}{1,334}$	
受診率	98.6% <99.0>	23.1% <16.7>	17.8% <13.7>	86.4% <88.6>	85.7% <70.5>	88.4% <92.3>	— <100>	100% <100>	50% <—>	57.7% <55.3>	<>内は 平成12年度

平成13年度胸部X線受診状況 (4/6, 10, 11)

区 分	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	M 1	M 2	D 1	D 2	D 3	総 計	職 員
男性	$\frac{89}{91}$	$\frac{33}{91}$	$\frac{23}{118}$	$\frac{99}{115}$	$\frac{28}{29}$	$\frac{24}{25}$	—	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{298}{472}$	$\frac{52}{77}$
女性	$\frac{190}{192}$	$\frac{72}{216}$	$\frac{38}{207}$	$\frac{187}{216}$	$\frac{8}{13}$	$\frac{15}{18}$	—	—	—	$\frac{510}{862}$	$\frac{17}{36}$
計	$\frac{279}{283}$	$\frac{105}{307}$	$\frac{61}{325}$	$\frac{286}{331}$	$\frac{36}{42}$	$\frac{39}{43}$	—	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{808}{1,334}$	$\frac{69}{113}$
受診率	98.6% <99.0>	34.2% <22.2>	18.8% <14.6>	86.4% <88.6>	85.7% <77.3>	90.7% <96.2>	— <100>	100% <100>	50% <—>	60.6% <57.1>	61.1% <52.5>

平成12年度保健室利用状況 (H 12. 4. 1 ~ H 13. 3. 31)

月	利 用 者 別		利 用 内 容 別					計	
	学 生	職 員	外科系	内科系	健康指導・相談	休 養	転 送		
4	209	13	24	52	136	10	0	222	
5	338	13	37	51	248	15	0	351	
6	513	9	57	52	387	25	1	522	
7	156	6	21	26	107	8	0	162	
8	76	5	7	11	58	5	0	81	
9	111	25	23	32	76	5	0	136	
10	214	17	24	76	113	18	0	231	
11	126	11	19	61	44	12	1	137	
12	105	15	12	44	44	20	0	120	
1	50	11	4	21	31	5	0	61	
2	70	8	5	34	36	3	0	78	
3	38	17	6	35	13	1	0	55	
合計	2,006 <1,703>	150 <187>	239 <235>	495 <444>	1,293 <1,104>	127 <107>	2 <0>	2,156 <1,890>	<>内は 平成11年度

外科系 → ガーゼ交換、湿布交換を含む。

健康指導・相談 → 健康診断受診証明の発行、検尿、血圧検査、身長・体重測定等を含む。

# 平成13年度学校法人予算について

事務局長 肥 塚 敏 彰

学校法人大阪薬科大学の平成13年度予算については、理事会の予算編成方針に基づき計4回に及ぶ予算委員会の審議を経て編成を行ったが、去る平成13年3月13日に開催された理事会および評議員会において承認されたので、資金収支予算書（総括表）を掲載し、その概要を説明したい。

（総括）

平成13年度の収入予算総額（収入の部合計－前年度繰越支払資金）は32億9,900万円、支出予算総額（支出の部合計－次年度繰越支払資金）は32億4,160万円であり、差引5,740万円の収入超過となる。

（学生生徒等納付金収入）

授業料15億2,200万円、入学金1億7,000万円、施設・設備費7億3,000万円他を計上した。

（手数料収入）

入学検定料1億1,000万円他を計上した。

（補助金収入）

私立大学経常費補助金2億5,500万円、研究設備・施設整備費補助金1億500万円他を計上した。

（事業収入）

附属薬局の収入予算3億1,700万円他を計上した。

（人件費支出）

教員人件費9億4,200万円、職員人件費3億6,700万円他を計上した。

（管理経費支出）

附属薬局の物件費2億8,450万円他を計上した。

（施設関係支出）

芝生広場造園工事1,700万円他を計上した。

（設備関係支出）

教育研究用機器2億6,700万円、図書4,930万円他を計上した。

## 平成13年度 資金収支予算書

{平成13年4月1日から  
平成14年3月31日まで}

収 入 の 部 (単位 千円)				支 出 の 部 (単位 千円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金収入	2,425,000	2,553,000	△ 128,000	人件費支出	1,376,000	1,456,500	△ 80,500
手数料収入	121,100	109,100	12,000	教育研究経費支出	535,100	501,600	33,500
寄付金収入	8,000	8,000	0	管理経費支出	378,700	358,500	20,200
補助金収入	363,900	263,200	100,700	借入金等利息支出	202,600	220,500	△ 17,900
資産運用収入	10,000	3,000	7,000	借入金等返済支出	358,500	3,158,500	△ 2,800,000
資産売却収入	0	3,500,000	△ 3,500,000	施設関係支出	22,400	7,000	15,400
事業収入	319,000	301,000	18,000	設備関係支出	322,300	169,400	152,900
雑収入	43,000	95,000	△ 52,000	資産運用支出	17,000	38,000	△ 21,000
前受金収入	399,000	420,000	△ 21,000	その他の支出	134,000	112,800	21,200
その他の収入	200,000	136,000	64,000	〔予備費〕	10,000	10,000	0
資金収入調整勘定	△ 590,000	△ 589,000	△ 1,000	資金支出調整勘定	△ 115,000	△ 85,500	△ 29,500
前年度繰越支払資金	458,000	1,102,000	△ 644,000	次年度繰越支払資金	515,400	1,954,000	△ 1,438,600
収入の部合計	3,757,000	7,901,300	△ 4,144,300	支出の部合計	3,757,000	7,901,300	△ 4,144,300

## □ 人 事 □

### 学 内 関 係

嘱 託 (平成13年4月1日付 期間1年)

森 逸男 (教授)  
藤田 直 (教授)  
草野源次郎 (教授)  
三谷 佐孝 (助教授)

非常勤嘱託 (平成13年4月1日付 期間1年)

柚木 孝士 (校医)  
板倉佐恵子 (学生相談室相談員)

併 任 (平成13年4月1日付)

教務部長 石田 寿昌 (教授) 任期2年  
学生部長 土井 勝 (教授) 任期2年

昇 任 (平成13年3月1日付)

講 師 喜多 俊二 (助手)  
(平成13年4月1日付)  
助 手 西堀 崇子 (副手)  
(平成13年4月1日付)  
課 長 古本 浩三 (教務課課長補佐)  
主 任 塚田ひろみ (入試・広報課)  
主 任 讀木眞理子 (図書課)

採 用 (平成13年1月1日付)

嘱託職員 高橋 勉 (薬用植物園・技術職員)  
(平成13年2月5日付)  
嘱託職員 中山 基宏 (図書課長・大阪薬科大  
学附属薬局事務担当統轄)  
(平成13年3月20日付)  
嘱託職員 後久 忠雄 (施設課長)  
(平成13年4月1日付)  
事務局長 肥塚 敏彰  
事務職員 藤田 梨誇 (総務課)

配置換え (平成13年4月1日付)

高橋 正好 (入試・広報課長/教務課長より)  
山之内有右 (教務課/総務課より)

教授会・拡大教授会担当 (平成13年4月1日付)

高橋 正好 (入試・広報課長)

招へい教授 (平成13年4月1日付 期間1年)

吉武 彬 (客員研究員)

非常勤講師 (平成13年4月1日付)

秋岡 壽 (臨床医学概論)  
今泉 昌利 (臨床医学概論)  
太田 光熙 (臨床生化学)  
笠原 伸元 (医療総合講座)  
片山 善章 (臨床検査総論)  
木村 文治 (臨床医学概論)  
小松 敏彦 (体育実技)  
齋藤 武 (数学1, 物理学補講)  
勢川瑠美子 (看護学総論)  
田口 侑男 (数学1, 物理学補講)  
寺野 由剛 (毒性学)  
戸口 始 (剤形設計学)  
中村 益久 (臨床薬理学2)  
中村 恵 (ドイツ語1, ドイツ語3, 基礎ゼミ)

林 龍平 (人文科学特論1)  
小坂 美樹 (フランス語1)  
古川 恵三 (臨床医学概論)  
榎矢 桂一 (ドイツ語3, 洋書講読ゼミ1)  
村田 吉郎 (病態生理学1)  
望月伸三郎 (体育実技)  
山内 真理 (英語1)  
山元 弘 (免疫学)  
和田 武夫 (生物統計学)  
渡辺 幹典 (社会科学特論1)  
Joseph Michael Jacobs (英語3)  
Julianne Gay Whitlam (英語3)

非常勤助手 (平成13年4月1日付)

宮田 真希 (体育実技)

客員研究員 (平成13年4月1日付 期間1年)

吉武 彬  
寺野 由剛  
中村 益久  
奥村 幸治  
岩本 千佳

定年退職 (平成13年3月31日付)

森 逸男 (教授)  
草野源次郎 (教授)  
喜多 俊二 (講師)  
河野 光次 (事務局長)  
伊藤 美雄 (事務局次長兼入試・広報課長)  
堤 富美夫 (事務職員)

退 職 (平成13年3月31日付)

黒田 和道 (助教授)  
泰松 明子 (助手)  
小林貴代美 (助手)

解 嘱 (平成13年3月31日付)

碓井 信二 (教授)

退 任 (平成13年3月31日付)

池田 潔・教務部長 (任期満了)  
稲森 善彦・学生部長 (任期満了)

### 法 人 関 係

理事就任 (平成13年4月1日付)

池田 潔

理事退任 (平成13年3月31日付)

森 逸男

評議員就任 (平成13年4月1日付)

千熊 正彦

評議員退任 (平成13年2月20日付)

村田 君江 (平成13年3月31日付)  
森 逸男

非常勤嘱託 (平成13年4月1日付 期間1年)

河野 光次 (法人事務局顧問)



平成13年度  
各部・委員会・委員一覧

◎各部署の長  
○副委員長  
代 代 行

(平成13年5月7日現在)

教務部

馬場きみ江 (助教授)  
松島 哲久 (助教授)  
井上 晴嗣 (助教授)

◎石田 寿昌 (教授)  
春沢 信哉 (助教授)  
松村 靖夫 (助教授)  
西野 隆雄 (講師)

学生部

稲森 善彦 (教授)  
濱中久美子 (助教授)  
大桃 善朗 (助教授)

◎土井 勝 (教授)  
中元 安雄 (助教授)  
藤本 陽子 (助教授)

就職部

馬場きみ江 (助教授)  
辻坊 裕 (助教授)

◎千熊 正彦 (教授)  
有本 正生 (助教授)

図書館

田中 一彦 (教授)  
大桃 善朗 (助教授)

◎沼田 敦 (教授)  
松島 哲久 (助教授)  
井上 晴嗣 (助教授)

研究委員会

石田 寿昌 (教授)  
井上 晴嗣 (助教授)

◎田中 一彦 (教授) (代)  
有本 正生 (助教授)

広報委員会

沼田 敦 (教授)  
石田 寿昌 (教授)  
掛見 正郎 (教授)  
高橋 正好 (入試・広報課長)  
藤田 純生 (学生課長)  
古本 浩三 (教務課長)

◎栗原 拓史 (教授)  
土井 勝 (教授)  
千熊 正彦 (教授)  
田中 一彦 (教授)  
内田 勝彦 (就職課長)  
中山 基宏 (図書課長)  
高橋 嘉明 (総務課係長)

公開教育講座委員会

田中 一彦 (教授)  
中元 安雄 (助教授)  
楠瀬 健昭 (助教授)

◎掛見 正郎 (教授)  
馬場きみ江 (助教授)  
藤田 芳一 (助教授)  
西野 隆雄 (講師)

市民講座委員会

馬場きみ江 (助教授)  
大桃 善朗 (助教授)

◎田中 一彦 (教授)  
春沢 信哉 (助教授)  
西野 隆雄 (講師)

動物実験委員会

稲森 善彦 (教授)  
馬場きみ江 (助教授)  
辻坊 裕 (助教授)  
安田 正秀 (講師)

◎池田 潔 (教授)  
加藤 義春 (助教授)  
松村 瑛子 (助教授)  
大桃 善朗 (助教授)  
松尾 真充 (総務課長)

薬剤師国家試験対策委員会

◎中元 安雄 (助教授)  
春沢 信哉 (助教授)  
土井 光暢 (助教授)

◎玄番 宗一 (教授)  
三野 芳紀 (助教授)  
辻坊 裕 (助教授)

医療薬学実習委員会

千熊 正彦 (教授)  
赤木 昌夫 (助教授)  
三野 芳紀 (助教授)

◎田中 一彦 (教授)  
掛見 正郎 (教授)  
中元 安雄 (助教授)  
西野 隆雄 (講師)

大学院小委員会

沼田 敦 (教授)  
掛見 正郎 (教授)

◎池田 潔 (教授)  
栗原 拓史 (教授)

カリキュラム委員会

石田 寿昌 (教授)  
藤田 芳一 (助教授)

◎玄番 宗一 (教授)  
掛見 正郎 (教授)  
松島 哲久 (助教授)

修学指導委員会

◎坂田 勝治 (教授)  
稲森 善彦 (教授)

◎矢内原千鶴子 (学長)  
沼田 敦 (教授)  
土井 勝 (教授)

人権委員会

稲森 善彦 (教授)  
千熊 正彦 (教授)  
加藤 義春 (助教授)  
藤田 純生 (学生課長)

◎上井 勝 (教授)  
石田 寿昌 (教授)  
阿部 功 (助教授)  
松島 哲久 (助教授)

交通整備委員会

◎土井 勝 (教授)  
肥塚 敏彰 (事務局長)

◎矢内原千鶴子 (学長)  
石田 寿昌 (教授)

学生相談室運営委員会

稲森 善彦 (教授)  
有本 正生 (助教授)  
井上 晴嗣 (助教授)  
藤田 純生 (学生課長)

◎土井 勝 (教授)  
松村 瑛子 (助教授)  
松島 哲久 (助教授)  
田中 麗子 (助教授)

総務委員会

沼田 敦 (教授)  
池田 潔 (教授)  
石田 寿昌 (教授)  
肥塚 敏彰 (事務局長)

◎矢内原千鶴子 (学長)  
栗原 拓史 (教授)  
土井 勝 (教授)  
千熊 正彦 (教授)

自己評価委員会

沼田 敦 (教授)  
池田 潔 (教授)  
土井 勝 (教授)  
坂田 勝治 (教授)  
田中 一彦 (教授) (代)

◎矢内原千鶴子 (学 長)

栗原 拓史 (教授)  
玄番 宗一 (教授)  
石田 寿昌 (教授)  
千熊 正彦 (教授)  
肥塚 敏彰 (事務局長)

バイオハザード予防委員会

池田 潔 (教授)  
安田 正秀 (講 師)

◎稲森 善彦 (教 授)

松村 瑛子 (助教授)

施設委員会

沼田 敦 (教授)  
池田 潔 (教授)  
土井 勝 (教授)  
千熊 正彦 (教授)

◎矢内原千鶴子 (学 長)

栗原 拓史 (教授)  
稲森 善彦 (教授)  
石田 寿昌 (教授)  
肥塚 敏彰 (事務局長)

ケミカルハザード予防管理委員会

稲森 善彦 (教授)  
馬場きみ江 (助教授)  
有本 正生 (助教授)  
辻坊 裕 (助教授)  
和田 俊一 (助 手)

◎三野 芳紀 (助教授)

千熊 正彦 (教授)  
木村捷二郎 (助教授)  
藤本 陽子 (助教授)  
宇佐美吉英 (助 手)  
後久 忠雄 (施設課長)

環境保全委員会

○石田 寿昌 (教授)  
掛見 正郎 (教授)  
三野 芳紀 (助教授)  
齊藤 睦弘 (講 師)  
宇佐美吉英 (助 手)  
増家 博 (学生課主任)

◎稲森 善彦 (教授)

池田 潔 (教授)  
木村捷二郎 (助教授)  
濱中久美子 (助教授)  
高岡 昌徳 (助 手)  
後久 忠雄 (施設課長)  
鶴田 政樹 (施設課員)

情報科学解析センター運営委員会

沼田 敦 (教授)  
掛見 正郎 (教授)  
土井 光暢 (助教授)  
高橋 正好 (入試・広報課長)  
中山 基宏 (図書課長)  
澤田あつ子 (図書課係長)

◎石田 寿昌 (教 授)

土井 勝 (教授)  
田中 一彦 (教授)  
大石 宏文 (助 手)  
藤田 純生 (学生課長)  
古本 浩三 (教務課長)  
高橋 嘉明 (総務課係長)

防火対策委員会

沼田 敦 (教授)  
土井 勝 (教授)  
田中 一彦 (教授)  
松尾 貞充 (総務課長)  
後久 忠雄 (施設課長)  
古本 浩三 (教務課長)

◎矢内原千鶴子 (学 長)

池田 潔 (教授)  
石田 寿昌 (教授)  
肥塚 敏彰 (事務局長)  
藤田 純生 (学生課長)  
中山 基宏 (図書課長)

大型共同機器整備計画委員会

沼田 敦 (教授)  
土井 勝 (教授)  
千熊 正彦 (教授)  
木村捷二郎 (助教授)  
松村 靖夫 (助教授)

◎田中 一彦 (教 授) (代)

池田 潔 (教授)  
石田 寿昌 (教授)  
赤木 昌夫 (助教授)  
松村 瑛子 (助教授)

R I 施設運営委員会

玄番 宗一 (教授)  
石田 寿昌 (教授)  
草野源次郎 (教授)  
松村 靖夫 (助教授)  
大桃 善朗 (助教授)

◎木村捷二郎 (助教授)

稲森 善彦 (教授)  
千熊 正彦 (教授)  
掛見 正郎 (教授)  
藤本 陽子 (助教授)  
肥塚 敏彰 (事務局長)

菓用植物園

沼田 敦 (教授)  
木村捷二郎 (助教授)  
田中 麗子 (助教授)  
谷口 雅彦 (助 手)  
後久 忠雄 (施設課長)

◎草野源次郎 (教 授) (代)

馬場きみ江 (助教授)  
三野 芳紀 (助教授)  
西野 隆雄 (講 師)  
芝野真喜雄 (助 手)  
高橋 勉 (技術職員)

組換えDNA実験安全委員会

稲森 善彦 (教授)  
草野源次郎 (教授)  
松島 哲久 (助教授)  
辻坊 裕 (助教授)  
河野 公一 (学 外)

◎池田 潔 (教 授)

石田 寿昌 (教授)  
田中 一彦 (教授)  
藤本 陽子 (助教授)  
大桃 善朗 (助教授)  
松尾 貞充 (総務課長)

実験動物センター運営委員会

藤田 直 (教授)  
玄番 宗一 (教授)  
田中 一彦 (教授)  
松村 靖夫 (助教授)  
大桃 善朗 (助教授)  
西野 隆雄 (講 師)

◎掛見 正郎 (教 授)

池田 潔 (教授)  
千熊 正彦 (教授)  
松村 瑛子 (助教授)  
辻坊 裕 (助教授)  
安田 正秀 (講 師)

# 教員研究業績一覽 (2000年)

(2000. 1. 1 ~12. 31)

## 1. 研究學術論文

著 者	題 目	掲 載 誌
土井光暢, 樽井麻里子, 石田寿昌	Crystal structure of hybrid dipeptide, uracil-1-yl-(2-carboxyethyl)-glycine	Anal. Sci., 16, 557 (2000)
土井光暢, 石田寿昌, 他	Amphipathic structure of theonella peptolide-Id, a hydrophobic tridecapeptide lactone from the Okinawa marine sponge <i>Theonella swinhoei</i>	Biopolymers, 54, 27 (2000)
土井光暢, 石田寿昌, 他	Unique sodium-caged structure of a potent endothelin-1 inhibitor: crystal structure of BQ123 sodium salt, $cyclo(-D-Trp-D-Asp^- -Pro-D-Val-Leu-) \cdot Na^+$	J. Chem. Soc., Chem. Commun., 743 (2000)
尹 康子, 石田寿昌, 他	Structural / physicochemical properties of corycavidine, a key intermetabolite in the biosynthesis of isoquinoline alkaloids, elucidated by x-ray crystallography, solution conformations and thermal behavior analyses, and energy calculations	Bull. Chem. Soc. Jpn., 73, 1233 (2000)
尹 康子, 谷小百合, 石田寿昌	Structural studies of C-amidated amino acids and peptides: Crystal structures of Z-Gly-Phe-NH <sub>2</sub> , Tyr-Lys-NH <sub>2</sub> , and Asp-Phe-NH <sub>2</sub>	Chem. Pharm. Bull., 48, 374 (2000)
山元 敦, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Molecular dynamics simulation of bovine cathepsin B and its complex with CA074	Chem. Pharm. Bull., 48, 480 (2000)
山元 敦, 友尾幸司, 原 忠興, 石田寿昌	Substrate specificity of bovine cathepsin B and its inhibition by CA074, based on crystal structure refinement of the complex	J. Biochem., 127, 635 (2000)
友尾幸司, 他	Crystal structure of amyloamylase from <i>Thermus aquaticus</i> , a glycosyltransferase catalysing the production of large cyclic glucans	J. Mol. Biol., 296, 873 (2000)
陽谷 武, 友尾幸司, 石田寿昌	Regulation of human eIF4E by 4E-BP1: Binding analysis using surface plasmon resonance	Life, 49, 27 (2000)
石田寿昌, 尹 康子, 他	A new sulfenylation reagent, 3-phenylsulfeny 1-2-(N-cyanoimino)thiazolidine, and its optically active version	Synlett, 2000, 32 (2000)
大石宏文, 他	Molecular structure and mutual recognition between host and guest molecules found in the crystal structures of oxacalix [ 4 ] arenes complexed with xylene isomers	J. Inclusion Phenom. Macro Chem., 37, 341 (2000)
大石宏文, 他	C <sub>2</sub> -Symmetric bis-sulfoxide: a novel chiral auxiliary for asymmetric desymmetrization of cyclic meso-1, 2-diols	J. Org. Chem., 65, 3284 (2000)

著 者	題 目	掲 載 誌
藤田芳一, 他	色素—金属錯体法を利用する新しい尿中蛋白定量試薬の基礎的検討	臨床検査, 機器・試薬, 23, 9 (2000)
千熊正彦, 他	Catalytic activity of anion-exchange resins modified with metal-porphine in oxidative reactions of phenols	Chem. Pharm. Bull., 48, 374 (2000)
米田誠治, 千熊正彦, 他	New antitumor-active azole-bridged dinuclear platinum(II) complexes: synthesis, characterization, crystal structures, and cytotoxic studies	Inorg. Chem., 39, 4230 (2000)
齊藤陸弘, 藤井恒子, 本田正宏, 米田祥子, 前田 綾, 妹尾晴美, 千熊正彦	Ehrlich腹水癌細胞とラット赤血球に対するセレン化合物の細胞毒性の相違	微量栄養素研究, 17, 41 (2000)
木村捷二郎, 平鍋恵理, 吉岡幸子, 堀田 薫, 河本泰江	薬学領域からの環境トリチウム問題へのアプローチ	KURRI-KR-53, 32 (2000)
高田多美恵, 岩本千佳, 沼田 敦, 他	Isolation and structures of schleicherastatins 1-7 and schleicheols 1 and 2 from the teak forest medicinal tree <i>Schleichera oleosa</i>	J. Nat. Prod., 63, 72 (2000)
宇佐美吉英, 伊倉隆史, 天形太郎, 沼田 敦	First total syntheses and configurational assignments of cytotoxic trichodenones A-C	Tetrahedron: Asymmetry, 11, 3711 (2000)
荒木理佐, 春沢信哉, 鈴木寛和, 栗原拓史	Synthesis of 4(5)-[5'-amino-5'-deoxy- $\alpha$ -L-arabinofuranosyl]imidazole and its 5'-derivatives using modified Mitsunobu cyclization: Synthetic studies toward novel histamine H <sub>3</sub> -ligands	Heterocycles, 53, 1957 (2000)
春沢信哉, 伊地智郁乃, 荒木理佐, 栗原拓史	Stereoselective synthesis of 4(5)-[(2S,3S)- and (2R,3R)-3-aminotetrahydrofuran-2-yl]imidazoles using modified and standard Mitsunobu cyclization: Synthetic studies toward novel histamine H <sub>3</sub> -ligands	Heterocycles, 53, 2739 (2000)
芝野真喜雄, 草野源次郎, 他	Phylogenetic relationship of six <i>Glycyrrhiza</i> Species based on <i>rbcl</i> sequences and chemical constituents	Biol. Pharm. Bull., 23, 602 (2000)
芝野真喜雄, 塚本大介, 藤本理恵, 樹井靖恵, 藤本久子, 草野源次郎	Studies on the constituents of <i>Broussonetia</i> species. VII. Four new pyrrolidine Alkaloids, Broussonetines M, O, P, and Q as inhibitors of glycosidase, from <i>Broussonetia kazinoki</i> SIEB	Chem. Pharm. Bull., 48, 1281 (2000)
草野昭子, 草野源次郎, 他	Two new triterpenic glycosidates from <i>Lavandula coronopifolia</i> in Egypt	Nat. Med., 54, 38 (2000)
芝野真喜雄, 川瀬さおり, 村上理恵, 喜多俊二, 草野源次郎, 他	ウラルカンゾウ ( <i>Glycyrrhiza uralensis</i> ) 栽培のための基礎研究(1)	Nat. Med., 54, 70 (2000)
高口茂, 芝野真喜雄, 草野源次郎, 他	Two new flavonol glycosides from <i>morettia philaena</i> growing in Egypt	Nat. Med., 54, 101 (2000)

著 者	題 目	掲 載 誌
草野源次郎, 芝野真喜雄, 鈴木直樹, 他	甘草屋敷のウルカンゾウ復活	Nat. Med., 54, 199 (2000)
馬場きみ江, 他	Inhibitory effects of active substances isolated from <i>Cassia garrettiana</i> heartwood on tumor growth and lung metastasis in lewis lung carcinoma-bearing mice (Part 1)	Anticancer Res., 20, 2899 (2000)
馬場きみ江, 他	Inhibitory effects of active substances isolated from <i>Cassia garrettiana</i> heartwood on tumor growth and lung metastasis in lewis lung carcinoma-bearing mice (Part 2)	Anticancer Res., 20, 2923 (2000)
谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	Three novel cyclospirobifuranocoumarins, cyclorivulobirins A-C, from <i>Pleurospermum rivulorum</i>	Chem. Pharm. Bull., 48, 1246 (2000)
谷口雅彦, 肖 永慶, 馬場きみ江, 他	Inhibitory effect of natural furanocoumarins on human microsomal cytochrome P450 3A activity	Jpa. J. Pharmacol., 82, 122 (2000)
木戸 正, 馬場きみ江	低環境負荷対応分析法(クリーンアナリシス)としての逆相薄層クロマトグラフィーによる生薬分析	Nat. Med., 54, 219 (2000)
大津博則, 田中麗子, 尹 康子, 松永春洋, 他	New abietane diterpenoids from the cones of <i>Larix kaempferi</i>	Can. J. Chem., 78, 31 (2000)
田中麗子, 大津博則, 岩本 学, 南 俊史, 松永春洋, 吉武 彬, 他	Cancer chemopreventive agents, labdane diterpenoids from the stem bark of <i>Thuja standishii</i> (Gord.) Carr	Cancer Lett., 161, 165 (2000)
田中麗子, 粕淵一顕, 喜多俊二, 松永春洋, 他	Bioactive steroids from the whole herb of <i>Euphorbia chamaesyce</i>	J. Nat. Prod., 63, 99 (2000)
木野内義孝, 大津博則, 松永春洋, 田中麗子, 他	Potential antitumor-promoting diterpenoids from the stem bark of <i>Picea glehni</i>	J. Nat. Prod., 63, 817 (2000)
和田俊一, 田中麗子	Four new trisnorlanostene-type triterpenoids from the stem bark of <i>Pinus luchensis</i>	J. Nat. Prod., 63, 1055 (2000)
岩本 学, 大津博則, 松永春洋, 田中麗子	Labdane-type diterpenes and a nordrimane-type sesquiterpene from the stem bark of <i>Thuja standishii</i>	J. Nat. Prod., 63, 1381 (2000)
田中麗子, 青木 仁, 溝田知史, 和田俊一, 松永春洋, 他	Three new lanostane-type triterpene lactones from the stem bark of <i>Abies mariesii</i>	Planta Medica, 66, 163 (2000)
田中麗子, 木野内義孝, 松永春洋, 他	Bioactive triterpenoids from the stem bark of <i>Picea glehni</i>	Planta Medica, 66, 630 (2000)
佐久間覚, 藤本陽子, 加藤祐輔, 北尾晃徳, 藤田 直	The regulation of prostaglandin and arachidonoyl-CoA formation from arachidonic acid in rabbit kidney medulla microsomes by palmitoyl-CoA	Life Sci., 66, 1147 (2000)
藤本陽子, 佐久間覚, 田上貴臣, 市川玲子, 藤田 直	N-ethylmaleimide inhibits xanthine oxidase activity with no detectable change in xanthine dehydrogenase activity in rabbit liver	Life Sci., 68, 517 (2000)

著 者	題 目	掲 載 誌
宮崎 誠, 澤田眞一, 西出貴義, 岩永一範, 掛見正郎, 他	Bioavailability assessment of arginine-vasopressin (AVP) using pharmacokinetic-pharmacodynamic (PK-PD) modeling in the rat	Biol. Pharm. Bull., 23, 87 (2000)
岩永一範, 松本すみよ, 掛見正郎, 他	Usefulness of liposomes as intranasal dosage formulation for topical drug application	Biol. Pharm. Bull., 23, 323 (2000)
宮崎 誠, 前川知栄子, 岩永一範, 掛見正郎, 他	Bioavailability assessment of disopyramide using pharmacokinetic-pharmacodynamic (PK-PD) modeling in the rat	Biol. Pharm. Bull., 23, 1363 (2000)
勝又英之, 藪田俊之, 岩永一範, 掛見正郎, 他	Gelatin microspheres as a pulmonary delivery system: Evaluation of salmon calcitonin absorption	J. Pharm. Pharmacol., 52, 611 (2000)
上原由理子, 岩永一範, 掛見正郎, 他	Effect of sodium glycocholate and protease on permeability of TRH and insulin across rabbit trachea	Pharm. Acta Helvetiae, 74, 411 (2000)
宮崎 誠	薬理効果を指標とした Bioavailability の評価	薬物動態, 15, 201 (2000)
西野隆雄, 他	グリセリン添加アロプリノール含嗽液の製剤学的検討	病院薬学, 26, 145 (2000)
田中一彦, 他	Impairment of mycophenolate mofetil absorption by iron ion	Clin Pharm. Ther., 68, 613 (2000)
田中一彦, 他	透析患者におけるジゴキシンの血漿濃度を上昇させる要因	TDM 研究, 17, 61 (2000)
黒 敏彦, 松村靖夫, 他	Effect of SA7060, a novel dual inhibitor of neutral endopeptidase and angiotensin-converting enzyme, on deoxycorticosterone acetate-salt-induced hypertension in rats	Biol. Pharm. Bull., 23, 811 (2000)
松村靖夫, 喜多紗斗美, 大串利絵, 奥井朝子	Effects of sesamin on altered vascular reactivity in aortic rings of deoxycorticosterone acetate-salt-induced hypertensive rat	Biol. Pharm. Bull., 23, 1041 (2000)
松村靖夫, 黒 敏彦, 小西文子, 高岡昌徳, 他	Enhanced blood pressure sensitivity to DOCA-salt treatment in endothelin ET <sub>B</sub> receptor-deficient rats	Br. J. Pharmacol., 129, 1060 (2000)
松村靖夫, 黒 敏彦, 小林 豊, 小西文子, 高岡昌徳, 他	Exaggerated vascular and renal pathology in endothelin-B receptor-deficient rats with deoxycorticosterone acetate-salt hypertension	Circulation, 102, 2765 (2000)
松村靖夫, 他	Role of endogenous endothelins in catecholamine secretion in the rat adrenal gland	Eur. J. Pharmacol., 406, 69 (2000)
山崎智之, 大曲正司, 玉井 功, 松村靖夫, 他	Inhibitory effects of AE0047, a new dihydropyridine Ca <sup>2+</sup> channel blocker, on renal nerve stimulation-induced renal actions in anesthetized dogs	J. Pharmacol. Exp. Ther., 293, 1040 (2000)

著 者	題 目	掲 載 誌
松村靖夫, 黒 敏彦, 小林 豊, 小西文子, 高岡昌徳, 他	Increased susceptibility to deoxycorticosterone acetate-salt-induced hypertension in endothelin-B-receptor-deficient rats	J. Cardiovasc. Pharmacol., 36 (Suppl. 1), S86 (2000)
高岡昌徳, 伊藤 誠, 神山 祥, 柴田朗秀, 大喜多守, 松村靖夫	Proteasome inhibition attenuates renal endothelin-1 production and the development of ischemic acute renal failure in rats	J. Cardiovasc. Pharmacol., 36 (Suppl. 1), S225 (2000)
黒 敏彦, 神農藍芝, 小林 豊, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Selective antagonism of the ET <sub>A</sub> receptor, but not ET <sub>B</sub> receptor, is protective against ischemic acute renal failure in rats	Jpn. J. Pharmacol., 82, 307 (2000)
松村靖夫, 他	Pharmacological characterization of a novel sulfonyleureid-pyrazole derivative, SM-19712, a potent nonpeptidic inhibitor of endothelin converting enzyme	Jpn. J. Pharmacol., 84, 7 (2000)
松村靖夫, 黒 敏彦, 小林 豊, 高岡昌徳, 他	Protective effect of SM-19712, a novel and potent endothelin converting enzyme inhibitor, on ischemic acute renal failure in rats	Jpn. J. Pharmacol., 84, 16 (2000)
玄番宗一, 他	Role of prostaglandin E <sub>2</sub> and leukotriene B <sub>4</sub> in skin reaction induced by transdermal application of propranolol	Biol. Pharm. Bull., 23, 208 (2000)
玄番宗一, 他	培養腎上皮細胞 LLC-PK <sub>1</sub> の低酸素後再酸素化障害における活性酸素の生成とアデノシンによる抑制	磁気共鳴と医学, 11, 159 (2000)
辻坊 裕, 宮本勝城, 岡本孝史, 折越英介, 稲森善彦	A serine protease-encoding gene ( <i>aprl1</i> ) of <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7 is regulated by the iron uptake regulator (Fur) protein	Appl. Environ. Microbiol., 66, 3778 (2000)
辻坊 裕, 畠野尚哉, 遠藤 博, 宮本勝城, 稲森善彦	Purification and characterization of a thermostable chitinase from <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520 and cloning of the encoding gene	Biosci. Biotechnol. Biochem., 64, 96 (2000)
辻坊 裕, 岡本孝史, 畠野尚哉, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	Family 19 chitinases from <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520: molecular cloning and characterization	Biosci. Biotechnol. Biochem., 64, 2445 (2000)
辻坊 裕, 宮本淳子, 近藤則彦, 宮本勝城, 馬場 直, 稲森善彦	Molecular cloning of the gene encoding an outer-membrane-associated $\beta$ -N-acetylglucosaminidase involved in chitin degradation system of <i>Alteromonas</i> sp strain O-7	Biosci. Biotechnol. Biochem., 64, 2512 (2000)
松村瑛子, 西中隆弘, 辻坊 裕, 稲森善彦, 他	Biological activity of alkyl 2-(acylthio) benzoates	Biol. Pharm. Bull., 23, 254 (2000)
稲森善彦, 磯山奈美, 辻坊 裕, 他	Phytogrowth-inhibitory activities of $\beta$ -dolabrins and $\gamma$ -thujaplicins, hinokitiol-related compounds and constituents of <i>Thujopsis dolabrata</i> Sieb. et Zucc. var <i>hondai</i> MAKINO	Biol. Pharm. Bull., 23, 645 (2000)

著者	題目	掲載誌
稲森善彦, 辻坊 裕, 他	Antifungal activity of Hinokitiol-related compounds on wood-rotting fungi and their insecticidal activities	Biol. Pharm. Bull., 23, 995 (2000)
伊藤淑美, 松村瑛子, 他	Characterization of recombinant human chymase expressed in <i>Escherichia coli</i>	Jpn. J. Pharmacol., 82, 144 (2000)
松村瑛子, 片山 哲, 他	New oleanene triterpenoid saponins from <i>Madhuca longifolia</i>	J. Nat. Prod., 63, 1679 (2000)
碓井信二	コミュニケーション論 一言葉について一	ばいでいあ, 24, 41 (2000)
楠瀬健昭	夢, 追憶, そして幻想 一『われらが孤児なりし時』を読んで	とい, XX, 25 (2000)
当麻成人, 他	4年間の大学野球選手の形態および体力の縦断的变化	体育研究, 34, 25 (2000)
当麻成人	水球競技の初心者指導 1 Coaching for Beginners in Water Polo	ばいでいあ, 24, 101 (2000)
[追補 1999] 土井 勝	Lepton Number Violating $e^-p \rightarrow e^+W^-n$ Reaction	ばいでいあ, 23, 77 (1999)

## 2. 総説・解説

著者	題目	書名または掲載誌 (出版社)
藤田 芳一	果たして ONOO <sup>-</sup> の運命は? ONOO <sup>-</sup> と CO <sub>2</sub> の反応中間体の検出	ファルマシア, 36, 511 (2000)
木村捷二郎	種々の環境試料中トリチウムの分析技術	RADIOISOTOPES, 49, 463 (2000)
草野源次郎, 芝野真喜雄, 喜多俊二, 他	国内薬用植物園保有の主なカンゾウ属植物について	薬用植物研究, 23 (2000)
岩永一範, 河端 裕, 楠引俊宏, 宮崎 誠, 掛見正郎	難水溶性薬物経口投与後の経リンパ吸収に及ぼす脂質分散系製剤の影響	DDS 研究の進歩 IX, 2000, 31 (2000)
高岡昌徳, 黒 敏彦, 松村靖夫	Role of endothelin in the pathogenesis of acute renal failure	Drug New & Perspectives, 13, 141 (2000)



### 3. 著書

著者	題目	出版社
木村捷二郎	生薬・漢方製剤の製造プロセスへの放射線殺菌技術への適用	フジテクノシステム東京 (2000)
掛見正郎, 中元安雄, 田中一彦, 西野隆雄, 他	薬学生のための病院・薬局実習用医薬品集 2000年版	薬業時報社 (2000)
掛見正郎, 他	薬剤師のための常用医薬品情報集 2000年版	広川書店 (2000)
掛見正郎, 他	薬剤学 I	広川書店 (2000)
掛見正郎, 中元安雄, 田中一彦, 西野隆雄, 他	薬学生のための病院・薬局実習の手引き 2000年版	薬業時報社 (2000)
河合悦子, 幸田祐佳, 玄番宗一, 他	腎とフリーラジカル 第5集, p 41.58	東京医学社 (2000)
伊藤 誠, 高岡昌徳, 黒 敏彦, 大喜多守, 松村靖夫	腎とフリーラジカル 第5集, p 97	東京医学社 (2000)
中元安雄	医療薬学 II	広川書店 (2000)

### 4. その他

著者	題目	書名または掲載誌
掛見正郎	薬理効果を指標としたサケカルシトニンのバイオアベイラビリティの評価と最適投与計画の設定	三共生命科学振興財団研究報告書, 16, 72 (2000)
木村捷二郎, 泰松明子	センナの放射線殺菌	生薬の品質保証に関する研究会報告集 No. 1, 10 (2000)
木村捷二郎, 他	照射生薬の性状変化に関する検討	生薬の品質保証に関する研究会報告集 No. 1, 111 (2000)
馬場きみ江	長命薬草アスタバ	安心, 4月号, 252 (2000)
馬場きみ江	アスタバで高血圧, 胃潰瘍が改善!	さわやか元気, 6, 241 (2000)
松村靖夫	確実に血圧が下がる高血圧撃退食がわかった	壮快, 1月号, 別冊 28 (2000)

# 葎

発行

大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1

TEL (0726) 90-1000 (代表)

FAX (0726) 90-1005

URL : <http://www.oups.ac.jp>